

んめ



い
ん
め
あ
ん

成年
コミック

ゲネシス





他 ヶ ヶ ヶ

んめ

【第1話】	びしょ濡れ美女の危険な誘惑	007
【第2話】	ひとつめの恋は淫らに淡く	027
【第3話】	上のくち下のくちどこのくち？	045
【第4話】	写真部の淫らな怪合	063
【第5話】	写真部の淫らな怪合・醒	083
【第6話】	懐かしい祭り囃子の音色は淫らな調べ	101

【第7話】	心をノゾく山の守り猫	123
【第8話】	妖刀の姫に魅入られた青年	145
【最終話】	涅槃を求め妖しく惹かれ合う陰と陽	165
あとがき		195

contents

他ヶヶヶ



他々々々

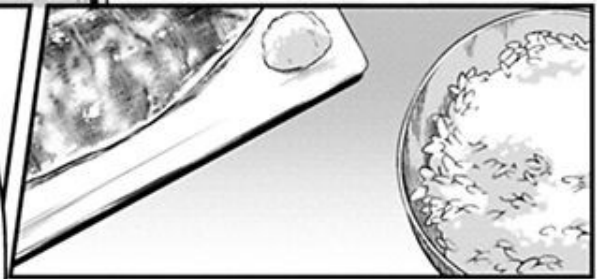


ふふふ……
どこへ行くの？

ハッ……



あたしたちから
逃げられるわけ
ないでしょ







また親父は
変なこと言っ
て



狐狸どもに悪さ
されんけりやええがの



こんなに
いい天気
だつてのに……



あつた……



！



どつかに雨宿り
できるところは……

さっきまで晴れてた
のに何故——！



はー...まいった
早くやんでくれない
かなあ

このままじゃ
風邪をひくぞ...

寒気が...



あひ...
すみません勝手に

あら雨宿りかしら？

ホント...突然の雨で
まいっちゃうわよねえ

ぜんぜんいいのよ
どうせなら雨がやむまで
君も中にどうぞ

うわ...年はいつてそうだけど
すごいキレイな人だ
この家の人なのかな？





転校初日に迷子だなんて
とんだ災難だったわね

学校までの道は
覚えてたつもり
だったんスけどねー

遅刻カナ

何かに
吸い寄せられるように
上がってしまった……

いつも今日はここで
ゆっくりと過ごして
みたらどうかしら？

え？



遠慮すること
はないのよ

家にはあたしだけだし
旅は道連れ世は情け……と
言う言葉もあるでしょう

それじゃあ
お言葉に甘えて……

あれ……変だぞ

学校へ行かなきゃ
いけないのに
なんでこんなこと
口走ってんだ？

それと……ふたりとも濡れた服の
ままじゃ風邪ひいちゃうし……
脱いじやったほうがいいわよね♡







う...あ
なんだコレ
まともに...立ってられない

ガク

んむっ...

んむっ...

んむっ...

んむっ...

んむっ...



んむっ...

んむっ...

んむっ...



んむっ...

んむっ...

んむっ...

もお...
逃げちや駄目じゃない

久方ぶりの獲物なんだから

最近の人間は鈍感すぎて
あたしみたいな妖怪がいても
気づきやしないのよね……
寂しいわあ

ほ……本当に妖怪……!?
……っていうか

嫌だ……!!
妖怪に貴重な童貞を
捧げたくない……!!

今その妖怪に
童貞奪われそうに
なってんだけど!



ニヤニヤ

ぬる

ニヤニヤ





ほら...あっ♡

うあ...

見る見るうちに
飲み込んでってるわよ

これ...駄目...

血の脈をにへばる

あっ

ムッムッ

きゅん...
きゅん...
きゅん...
きゅん...
きゅん...
きゅん...
きゅん...
きゅん...
きゅん...
きゅん...

きゅん
きゅん
きゅん
きゅん
きゅん
きゅん
きゅん
きゅん
きゅん
きゅん



ふふふふふ……
挿れただけでも精気を吸われるから
快感と脱力感がすごいでしょう？

少しかわいいそうだけど
あたしの家に辿り着いた
不幸を呪ってね

相手が衰弱するまで
あたしは決して放さないの

さあ……最期の瞬間まで
一緒に楽しみましょう♡

うあっ

うっ……

くっ

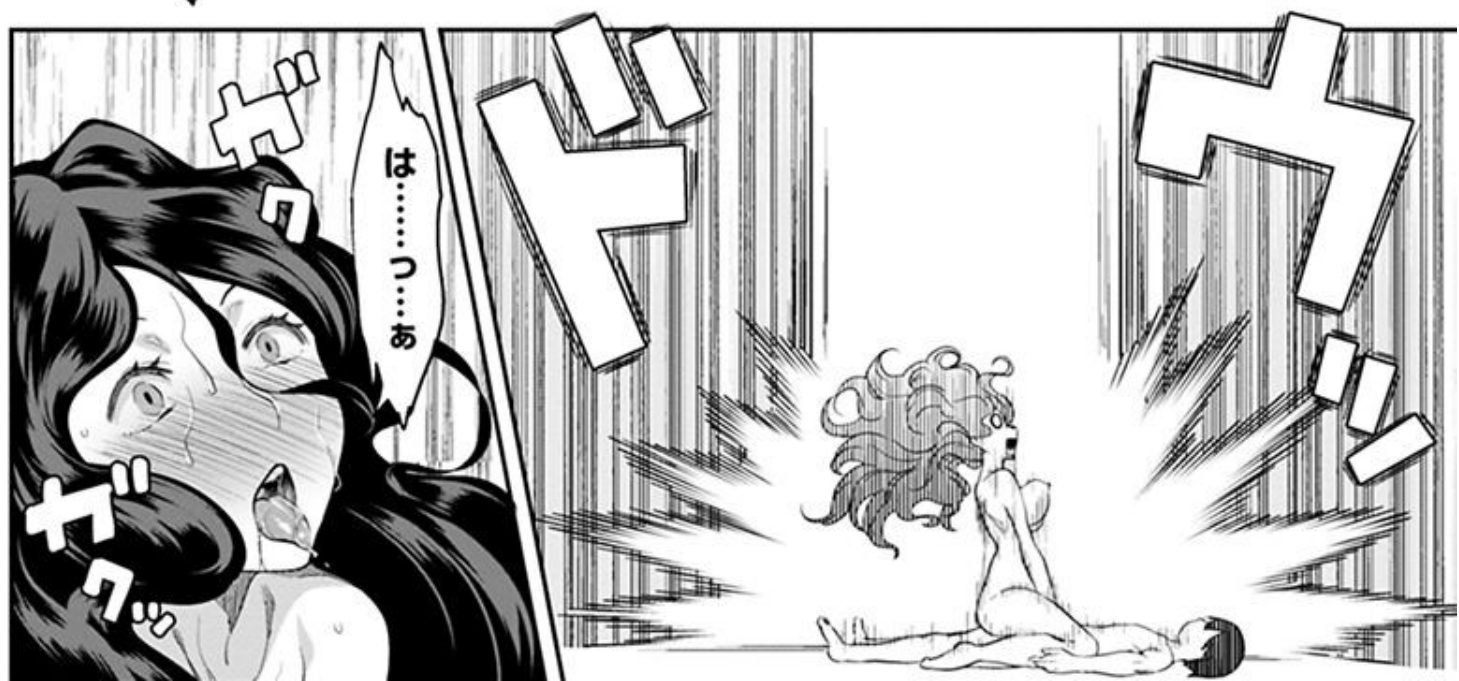
みちちち

みちちち

たのしみ

たのしみ







何…コレ…

彼の精液から
大きな陽の気を
感じたけど……

でも
この多幸福感は
何……？



駄目…気持ちよすぎて
力が入らない……

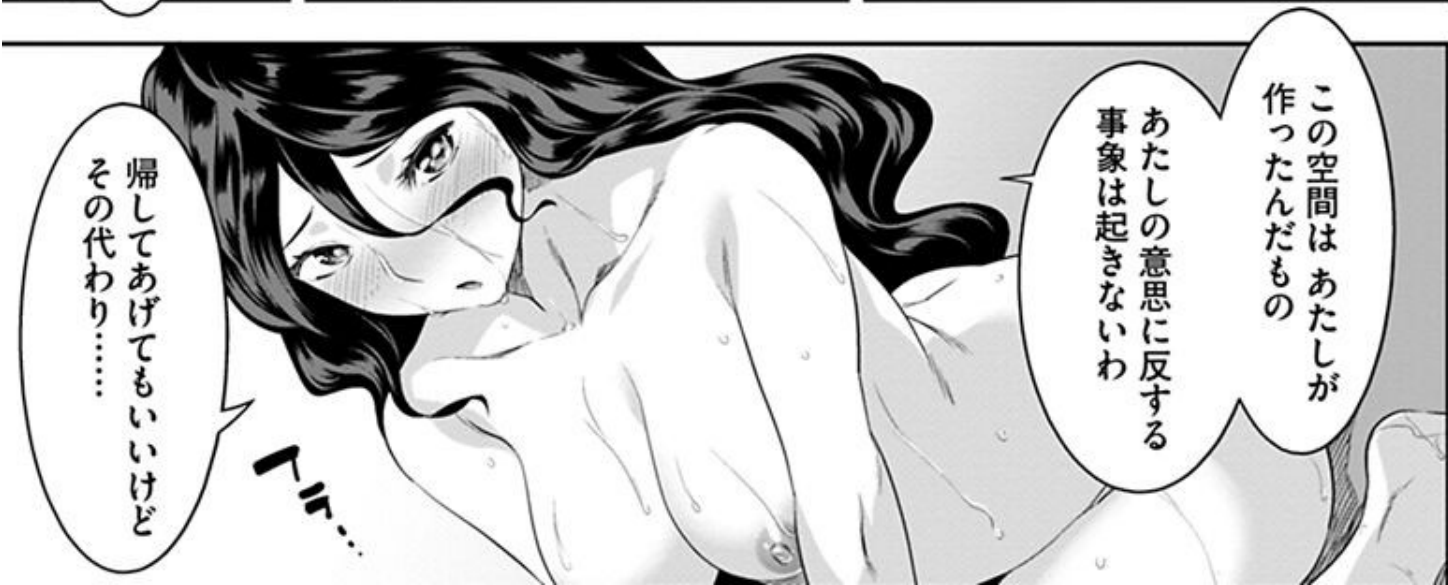
……

何があったか知らないけど
体の自由が戻った……

逃げるなら
今のうちだよな……！

あれ……？

無駄よ



この空間はあたしが
作ったんだもの

あたしの意思に反する
事象は起きないわ

帰してあげてもいいけど
その代わり……





いいか
終わったら絶対に
帰してくれよ

実のところは
俺も……

きゅっ



足・り・な・い・と
思・っ・て・た・ん・だ



感じ...あ...
すまやっ♡

わああ♡
スィ♡

アッ♡
アッ♡

グッ♡
グッ♡

グッ♡
グッ♡

グッ♡
グッ♡



さっきまで
俺を殺そうとしてた奴が
言うセリフとは思えないけど.....



んんっ♡
...あたしからこんな
声が出るなんて.....

君のこと.....
本気で...んあっ♡
好きになっちゃい...そ...



もー...男のくせに
細かいわねえ



まあ……

なんて言うか
……



悪い気は
しないけどさ

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

悪い気は
しないけどさ



新しいお風呂
お風呂
お風呂

お風呂
お風呂
お風呂



つづく

第2話 ◆ ひとつめの恋は淫らに淡く





ふー……
緊張したけど
無事挨拶できて
よかったあ……



この地域は廃墟が
多くなって
情報が
はいっありがとうございますね！
それじゃあ一番後ろの
席に座ってちょうだい



しかし登校するまでは
絶対に遅刻だと
思ってたけど杞憂だったな

なんだかこの学校では
いいことが起こりそうな
予感がするぞ
とりあえず質問攻めの
準備をしとこう



きりーっ
れーい
ありがとう
ございましたー
っしたー

気を付けー



何ともなく
放課後になってしまった。

結局転校生が
ちやほやされる
なんてのも都市伝説……

ねえねえ
鬼村クンだっけ？

フッ

えっ…あ
君は？

俺は相田照之
なんかつまんなそうに
してるからさ

鬼村クンさえよければ
トモダチになって
くんないかなーってね

も…もちろん
いいいいよ！

よかったあ
んじやトモダチとして
試験を課そうじやないか

モチロンこれは
君に職員室の場所を
覚えてもらうためだからね

あそこにとっちやりある
プリントを職員室まで
運ぶんだ

とっちやり

ちよ…
え…？

そんじやあ
ヨロシクねー！

流石委員長
かしこいな！

だろー？
よしっさつさと
カラオケ行こうぜ！

……

職員室って
どこだあ…？

てかそもそも
なんだよ
このプリント…

アホ…

アホ…

とっちやり！
とっちやり！
とっちやり！



曲がり角でぶつかって
突然のロマンス?
それともイケナイ展開に
なっちやったり?

もおおやだあ……
パンツ見えちゃってるう♡

えん?



うん……
大丈夫?

……え?
あたし?

……えっと……
大丈夫……ですか?



ンボッ

わわわわ

はあ

ウンお~~~~
ごめんなさい!!

あ……
ちよっと待って!



そっかあ...まあ
転校生には優しく
しないとね.....

あたし委員長だし.....?

そもそもぶつかったの
あたしだし.....



職員室の場所が
わかんなくてさっ

俺...今日転校してきた
ばかりで



転校生.....?

そういえば
初めて見る顔
だけ.....



手伝って
もらっちゃって
ごめんね

ノープロブレム!
委員長だからね



そ...それじゃ...あの
し失礼しました!.....



うちのクラスの
委員長とは大違いだ...

?



それじゃあ
用事済んだっばいし
あたしは行くね

付き合ってくれて
ありがとう……
あの……名前って……



それからというもの
俺は図書室に
通うことが
習慣化していった



たまにジュンちゃんから
俺の教室へ遊びに
来てくれることも
あったりして

放課後とか図書室で
よく暇してるから
よかったらまた声かけて



そんな中……



おっとうっかり
あたしはC組の柳鶯

この事態は
如何なるものや……



下校途中グラウンドから
ジュンちゃんの姿が
見えたと思ったら
野球部の部室前で堂々と
エロ本見てんだもんなあ……



なんだか話しかけ
づらいし帰るか……



まさか……
オナニーしてる……!?



ミーン
ミーン
ミーン

ミーン
ミーン
ミーン

キーン
行たぎ

えっ!?

ソクソク

お……

お……

お……

お……



グク...

野球部員の
みなさあん!

あっあん
みてえ...

貴方たちがいつもオカズにしてる
えっちな本でオナニーしてる
あたしを見てえ...♡

みてる♡



変なとこに
打つよなー

タタッ

ったく



ゲッ!



えっ?

見て...

もっと
近くで...



俺は……
俺はずっとジュンちゃんを
見てるよ……!!

えっと
……いつから……?

ジュンちゃんが
エロ本読んでる
時から……

へ……うそっ
霊介……クン……?

あ……はは……

オナニーしてる姿……
すごくエロくて
興奮したよ

へっ
あ……そっ
それはどうも……

じゃなくってえ……
ああああ……

は……あ……
ジュンちゃん……俺

あ……♡



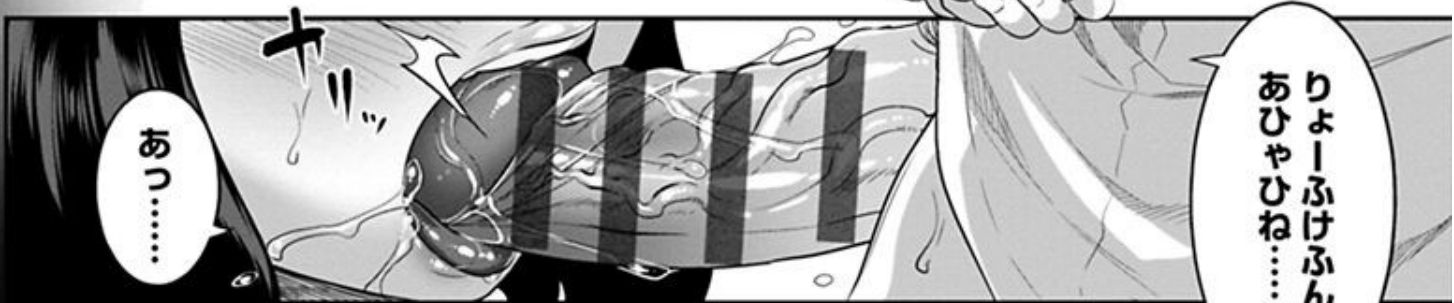


欲を言えば
もう少し刺激が
欲しいところだけどね…



ほんまっ…
うれひい…

ジュンちゃんのクチ…
あつたかくてぬるぬるで
気持ちいいよ…



あ…

りよーふけふん…
あひやひね…



フ

フ



うわっ
ごっゴメン!

クッ

あれ……えっ
ちよっと待って!

クッ

クッ

クッ



やだあ……

見ない……で……

クッ



もしかして
目に入っちゃった?

きやつ

ヤダヤダッ!

クッ

メガネが取れたら
一つ目に……
まさかまた妖怪……？

霊介くん……？

あれ……でも変だな
妖怪だなんて気に
ならないくらい
かわいく……

きんぐ

えっごめん
素の顔がかわいくて
めっちゃ興奮してきた
もっとよく見せて……

へっ？
いや……ダメダメ!!

ちょっと物好きい……
あたし妖怪とかその
類いなんですけどお……？

……うん
わかった

霊介くんお願い……
何も言わずそのまま
抱いて……

下キヤ

ニセキヤ……



うーん…やっぱり
素顔のほうが

ひよっ
ひよっ

ひゃあっ！

て……

手……ぎゅって
して……

あたしね…
もう…ひとり
はや…なの

そばにいてえ…
ずっとお…あつ♡
あたしを見ていて…

霊介くん……
お願い…ずっとお……

ぽ
ちゅん

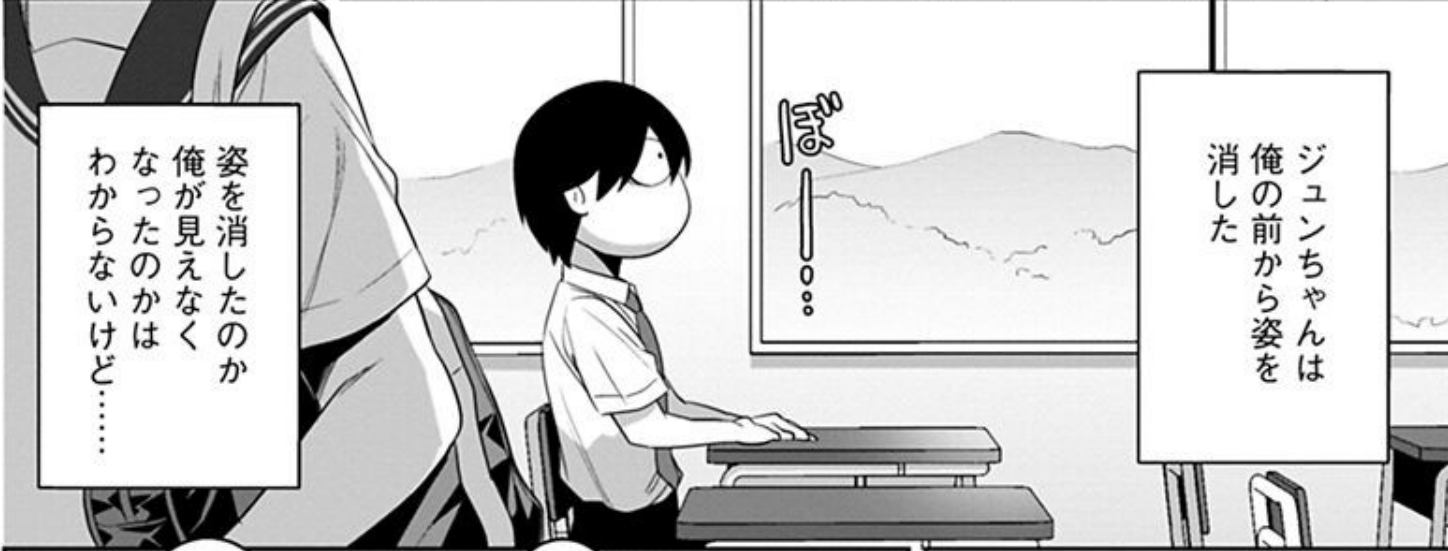
ぽ
ちゅん

ぽ
ちゅん

びゅん…
びゅん

わかった……
ずっとそばにいる…
約束するよ！

いっ…
ぷんぷん





タリナイ…

ひっ…

オナカ…スィタ
ガマンデキナイ

モツァウーサー
ヨコセ

第3話 ◆ 上のくち下のくちどこのくち?



なんか最近
ヘンテコな食い逃げが
流行ってるらしいじゃん



しつてモ…

オマエガ
喰われタイノカ?

流行るって言い方は
違ふと思うけど……
うちも定食屋だから
最近じーちゃんピリついてる
んだよね

えっ

霊介んち
めしやなの？

言ってなかったっけ？

お食事処キムラ食堂
っていう……

あー俺
知ってるかも

今にも死にそうな
じーさんがやってる
ところだろ？

…実際は死ぬほど
元気なんだけどね

それじゃあ
またー

ボサボサな髪だな……

他の事言えなはけど……

服も汚れてるし
ワケアリだろうか……

あれ……
お客さんかな？







わあ



霊介!!

なんだアレ……
後頭部に……クチ?



たあ たあ

あ ああ

ちよ……
一体何が……?



例の
食い逃げ犯!!

そいつじゃ……
捕まえてくれ





大丈夫……？



君って笑顔になると
本当にかわいいね

……へっ？

冗談はやめて……
自分でも醜いって
わかってるから

いつも
食べてばっかの
デブだし……

ヤケに卑屈だなあ……

あのさ……

君はいつも
食あんなことい逃げことをしてるの？





…いやいやいや
俺なんて食っても
ビョーキになっちゃうよ!?

…そうじゃなくて



あたしはヒトに
迷惑かけたくないから
いつも普通の食事で
精気を補ってただけど

妖怪って本来はね…
ヒトの精気を吸って
存在を維持する
もので…だから…

なんだよ
やっぱり良いコじゃ
ないか

そういうことなら…

協力するよ

是非……!

ヒトの精気で

やっぱり
アレだよな……

うーわあ……
もうびちよびちよに
濡れちゃってるね

あつ……あのねっ
そこでも間違いじゃ
ないんだけど……

んっ……う……
わ……私の場合……
もっと効率のいい方法が……





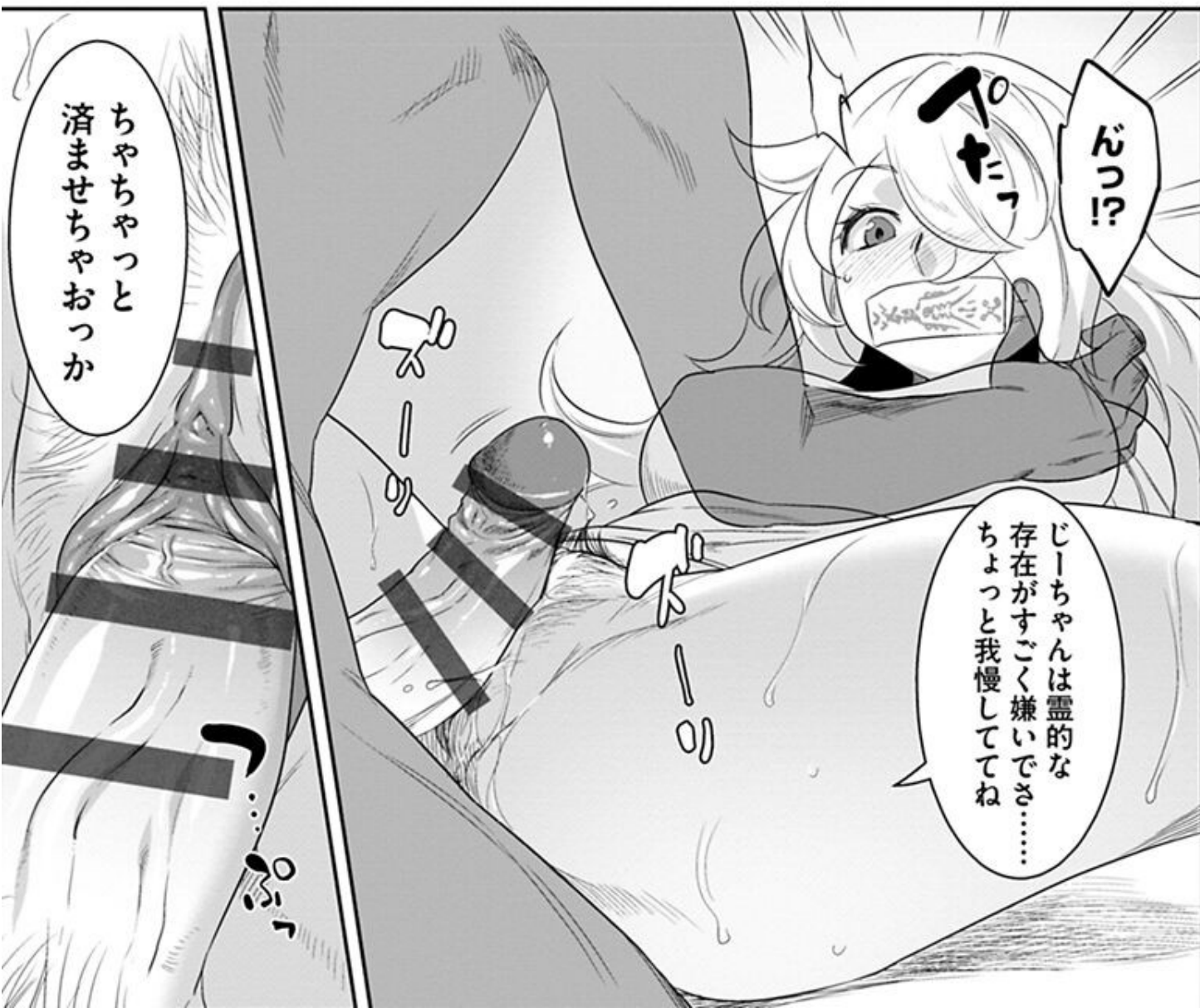
おいイ！
なーにを
くつちやつべこと
んならあ！！

今に除霊して
存在を抹消してやるけえ
待つとれやあ！！



よつと……

ふう……
仕方ないなあ……



んっ？！

じーちゃんは霊的な
存在がすごく嫌いであ
ちよつと我慢しててね

ちやちやつと
済ませちやおつか



痛くない……?
キモチいい?

んん……
答えられないか
ごめん

んん……





は……？

すごいすごいっ！
こんな力が湧いてくる
精気は初めてっ♪

ちょ……ちょっと!?

今度はこっちが
縛られる番か……

びゅ

しゅる
しゅる



は……あ……安心して……
噛んだりしないから

オマンコなんかより
ずうっとキモチいいん
だよ♡



それじゃあ……
こっちにもちようだい♡

ゴク

ゴク



おは...
おは...
おは...

おは...
おは...
おは...

おは...
おは...
おは...

ていうか中が常に
うねってるんだけど...
確かにすごい快感だ

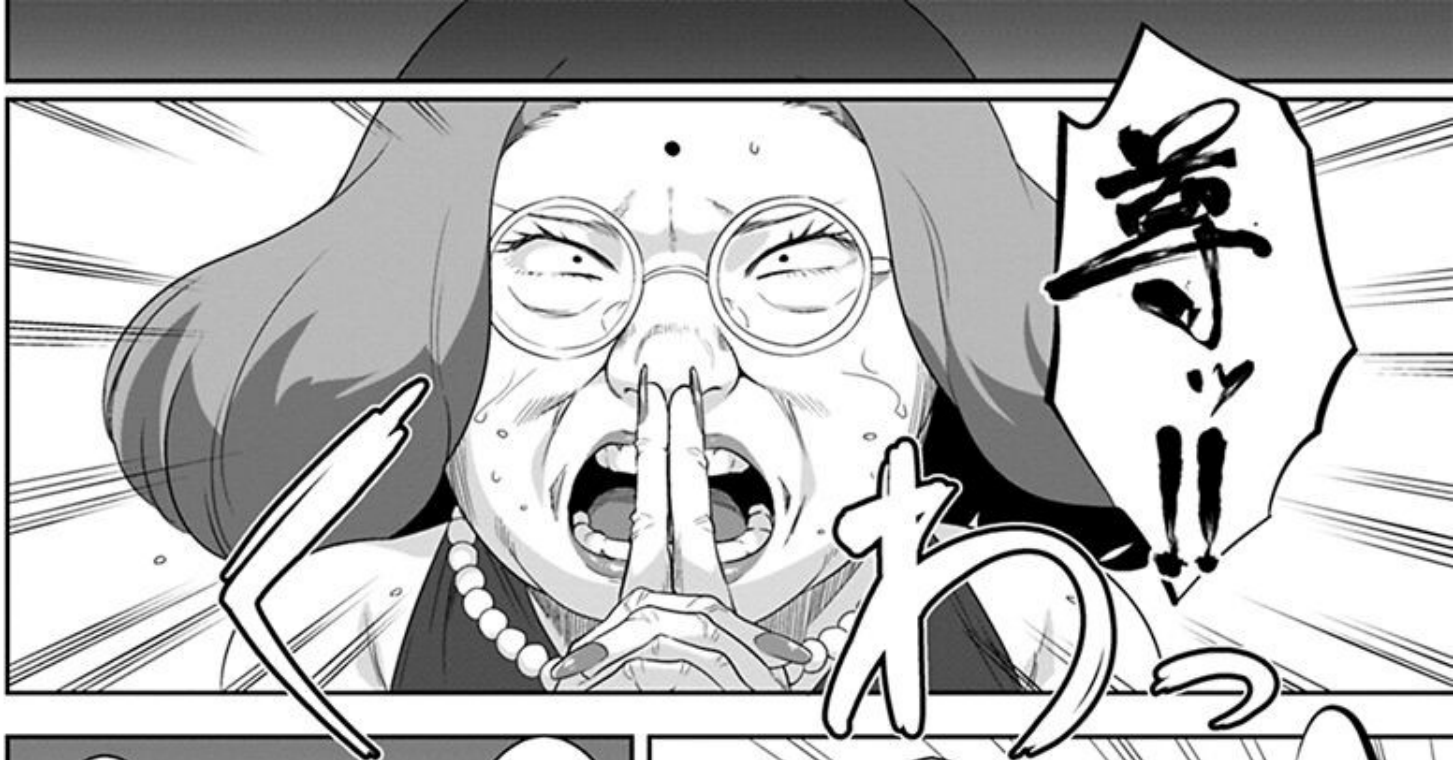
うわあ...マジで
頭の中にチンコ
入っちゃったよ

あれ...
少し緩んで...

思ったように
体が動かないのは
もどかしいな...

あ...
あ...
あ...





職員室

相田君……こっちを見なさい
四限目どこにいたの？

えー……
教室っすけど？

それと前から言ってるけど
その髪色は駄目よ

もう少し学生らしい髪色に
直しなさい
来週までには黒にすること
……いいですね？

クラス委員なんて
くじ引きで決まった
だけじゃん……

成美ちゃん
俺食堂行きたい
んだけど……

先生がたから聞いてるわ
相田君はたびたび授業に出てないって……
そんな素行じゃクラス委員として
示しがつきませんよ

「わかりました
羽原先生」……てしよ？

わ……わかりました
羽原先生……

第4話 ◆
写真部の淫らな怪合



グッ
グッ

だいたい成美ちゃんは
カタブツすぎんだよなあ
アレがなきや美人だし
イケてる女なのに……

おかげでちくわパンしか
残ってなかったじゃんか

あーあ……



霊介といるのは
確か……

んん？



隣のクラスの丸岡^{まるおか}か…
なんつーか珍しい
組み合わせっーか
何を霊介と熱心に
だべってんだ？

おっと



それじゃあ鬼村君
待ってるからね

うーうんっ
それじゃあ

あのカメラオタクと談笑
できるなんて
靈介も変わってるな

話してみると
けっこう面白い人
だよ

キモクワッ
びっか...



これもらったんだけど
最近学校付近でやけに強烈な
心靈写真が撮れるらしいんだ

部室に行けば
もっとすごいを見せて
くれるんだってさー

どうでもいいけど
これしまえよ
誤解されっぞ...

オイオイ！
キョーレツ写真っつーか
モーレツ写真じゃねーか！

放課後

写真部
部員大募集中!!

キョーレツ



丸岡君
すごいねっ
想像以上だよ！

なかなかの
コレクションだろ？
凝りだすと止まらない
んだよね



でもね……
本当に見せたいものは
他にあるんだ



うわっ…コレ！
サモエド鳴トンネルにも
行ったの!?

いやーハハ……
そこはすごかったね
翌日高熱出ちやったし

ニヤッ



ちよっと
ついて来て

う…うん



特別招待だよ



本来暗室は写真部員しか
立ち入ることのできない
聖域なんだけどね



あら……
鬼村君じゃない

おい…遅かったじゃないか

勝手に始めるところ
でしたよ

うえっ…
先生!?

ククク…



ど...どうして
羽原先生が...

それはね...



この女が我が
写真部の顧問であり
性処理係だからさ

わん
わん

ほ



まあ信じれないのも
無理はないよ
あの羽原成美先生が...だもんね

キツカケは1カ月ほど前
君が転校してきた
翌週あたりかな

.....

わん
わん

写真部はずっと
廃部寸前でね
なんとかそれを食い止め
れないかと思って
先生に相談したんだ

第49回
県病犯
フォトコンテ

ちよちよと待って
丸岡君……

先生に裸になれ
って言うの？

はい！
お願いします！！

県のフォトコンには
エロス部門があつて
競争率が低いから
狙い目なんです！

おなしゃー

お願い……

何かしら賞を取れば
廃部を回避できるかもって
先生言ったじゃないですか！

でもヌードモデルは
ちよと……

後生です！
先生ってバレないように
撮りますから！

うーん……



こらこら
早まらないの

やってくれ
るんですか?!

やっ...



.....丸岡君
顔をあげてちょうだい

!



いやっ.....
僕たちは羽原先生に...

美術の神戸先生に
モデルさんのツテが
ないか聞いてあげるわ

しゅっ



おっ
おっ
おっ

!?

おっ
おっ



ほらな
駄目だったろ?

普通に学生部門を
狙うしかないですね

そうなる
とインパクト重視で...

おっ



顧問教師…だもの

部活に一生懸命
打ち込んでる生徒のために
ひと肌脱がなきゃ駄目よね



まっ…正直
そこから先は
あまり覚えて
ないんだけどさ



あの日から羽原先生は
放課後になるとちんこを求める
メスになるってワケ



君の好きな
心霊スポットだって
一緒に巡れるし

もし鬼村君が
入部してくれたら
廃部から一步
遠ざかるんだ



ど…どうして
そんなことを俺に…？



発情してる羽原先生
ともセックスし放題

さっき言ったよね
写真部は廃部寸前
だって…



んっ...



決めつけられて
しまった...

考えてみなよ
これは童貞を捨てる
チャンスだよ

先生
こっちも頼むよ



やっぱり先生は
ちんこに囲まれた姿が
一番映えるね

もっと強く
しごいてくださいよ

はっはっはっ
はっはっはっ
はっはっはっ

はっはっはっ

はっはっはっ
はっはっはっ
はっはっはっ

はっはっはっ

はっはっはっ

はっはっはっ
はっはっはっ
はっはっはっ

はっはっはっ
はっはっはっ
はっはっはっ

はっはっはっ

はっはっはっ
はっはっはっ
はっはっはっ



あははははは

くっ…イクぞっ!

あはは

あはははは

あは…あは

あははははは
あははははは
あははははは

あれ……?

今……

あははははは



多分気のせい……
じゃない

雰囲気にもまれて
気づかなかったけど
先生から鋭い妖気を感じる



写真部の人たちからも
微かにだけど同様の……
この人たちも取り憑かれて
いるんだろうか？



どうにかして
コイツを鎮めないと
どうにかして……

えなんだ……
体がおかしいぞ……



ドク……



下半身が熱い……
チンコが勃起しすぎて
いてめちやくちや痛い



ふふ…わかってるわよ
鬼村君が欲しがってる
モノ……

先生のおまんこ…
でしょ？



んじょっ

!

おし



鬼村君

先生とセックスする
ってことは
入部届にサインをすると
同義なんだけど

問題ないよね？

って…聞いてないか

んん♡

はあっ…嬉しいわあ
んっふふ…

鬼村君は
イケナイ子よねえ

ゴムも着けずに先生の
おまんこに…んあ
おちんちん…ふふっ
挿れちゃうだなんて…♡

ちんちん

ちんちん

ちんちん

ちんちん

んはあっ！
もっと奥
突いて…えっ♡

写真部の子たち
より……

君の方が
ずうっと素敵♡

女は♡

体は言うこと聞かず
容赦なく先生の膣なごへと
腰を打ち突けるが

俺にはひとつの
思惑があった

最近漫然とだけど
感じていたこと……
俺の精液には
霊を浄化させる力が
あるんじゃないか？

そしてそれが事実
だとしたら……





先生を助けることができ

ズン...

クワッ...

ズン...

クワッ...

ズン...

ズン...

ズン...

クワッ...



ツ痛う~~~~
な...何が...

うぐ...

うぐ...



うぐ...

ひ...

え...?



そうせぬと
この身が霧散する
ところだったのでな

なんと強い精気か...
殴りつけたことに関しては
許せ童

うぐ...

この姿ならば
受け止めきれよう



正体を
現しやがった...!

蛇...?

せ...先生?

うわああ!

うわわわ

つつく



なん...だよ...
この化け物っ!

こいつが...

催眠が醒めるほど
刺激的な姿だったか?
くくく...

羽原先生に
取り憑いていた
悪霊.....!

お...お...

第5話 ◆
写真部の淫らな怪合・醒

怯える様子は愉快だが
騒がしいのは好かんぞな







さあ…観念して
こっちへ来い

ムードが欲しいなら
愛の言葉でも囁いて
やろうか？

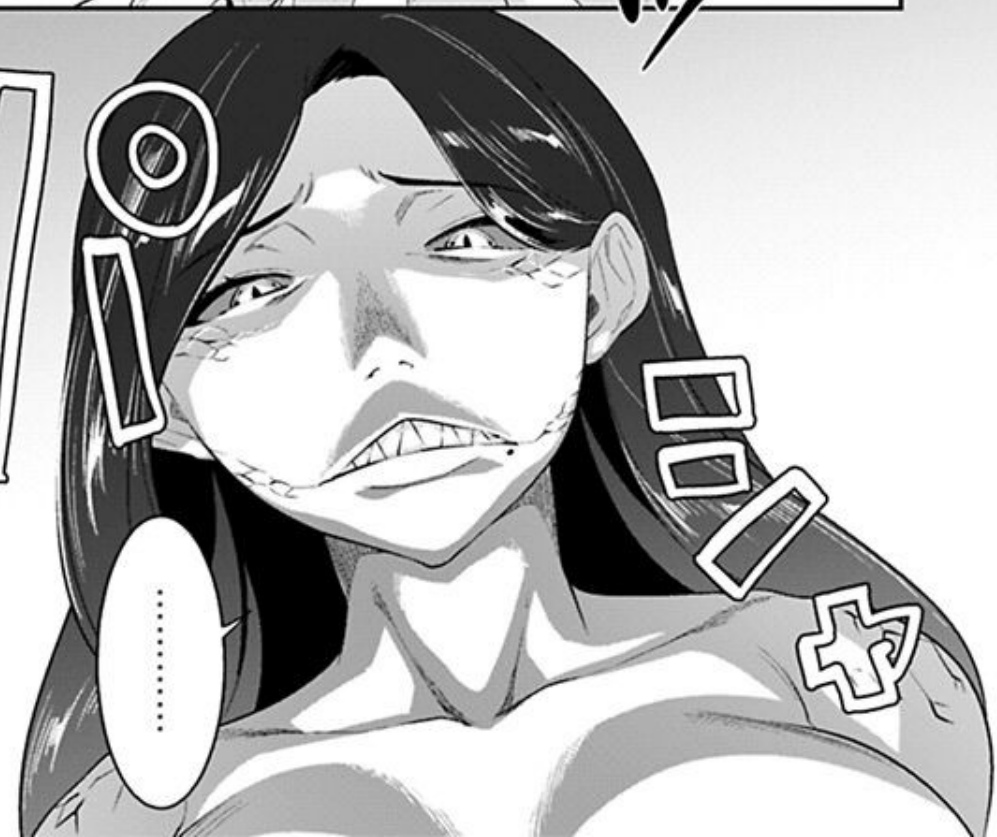


この前
プレイした
ゲームで確か…!



…何のつもりなの？

ゲーム脳の敗北



グワッ!

あまり妙な真似は
しないほうがいい…

ちぎるんば
首が転がるぞ



…おや?

首を絞められて
興奮したのか…?
ふ…面白いやつだ

何はともあれ
準備は整ったと
いうわけだ

童…おまえにひとつ
いいことを教えてやろう



冥界の存在と
触れ合う者は
冥府の世界へ
近づいていく……

話せぬ事柄も
その秘事の裏に
隠れていく

おる……

触れ合うだけで
徐々に精気は抜けていく

ならば膣への吐精は
どうなるか……

ん……あ

ん……



根元まで全部入ったぞ

どうだ童...



精気は快感を伴って抜けていくものだからな



並の性行為では得られない快感だろう



ん…やはり強烈な精気だな
つい我を忘れ夢中になって
しまいそう…だ

んん…
んんん…



ふふ…その表情だ
私の中で果てようと
する者は皆恐怖に
歪んだ表情になる……

みぞく
んんん
んんん
んんん

あ…
んんん
んんん
んんん

う……ッ
ぐぐ……ぐッ

ガ
ク
ク

ガ
ク
ク

ガ
ク
ク

ん…?

ぬ
ぢ
ん

ぬ
ぢ
ん

なんだきう
出……きうのか？

井あいらだぶじ……
全部私の中で遊んがら

た
ぽ
ん

く
わ
た
か
が

ド
ン
ド
ン

お
ま
ん
だ
ら
ん
ど
ん
ど
ん

ガ
ク
ク
ク
ク

ド
ン
ド
ン





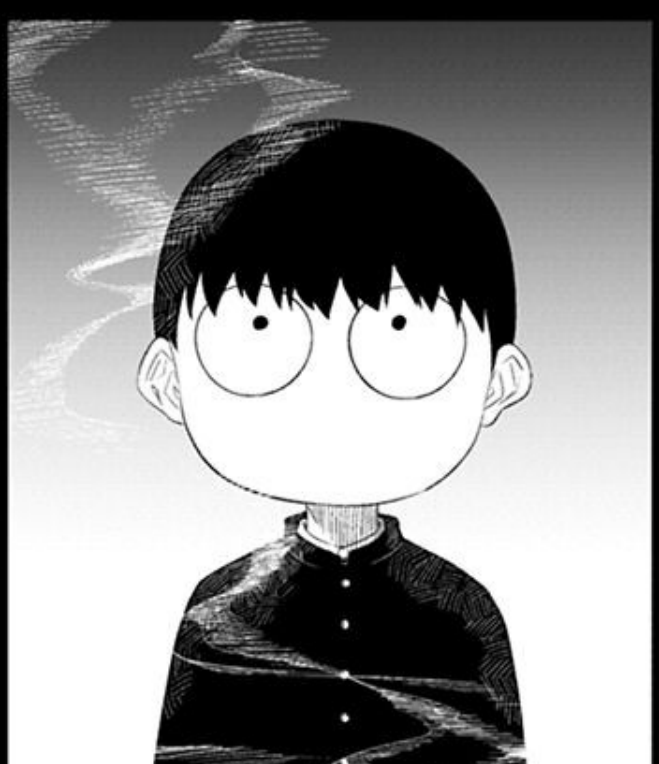
はっ
離れるッ!!



……じっ?



駐在は
崖からの転落死
言うとなったな:





彼奴らは無能じゃ

弘美と和子さんは
魑魅魍魎の類いに殺された
…わしにやわかる

親父……
えー加減にせえよ



はあ？

なあ霊介

じーちゃんは
ばーちゃんとお母さんに
ひどい酷いことした悪霊を
絶対に許せんのだよ



霊介……おめーは
どう思っとんなら？

……



普段はそんなん言うても
流せとったけどなあ……
今は霊介のためにもしつかり
現実受け入れにやおえまーが！

現実受け入れよお
らんのおめーじゃ
霊介はちゃんと
理解しとるで

ボクは……

ズズ……

ズ……

ガッ

ニムキョウ……

なんだこの精気は……
陽の気が巨大なだけではなく
強烈な思念を帯びている……

この気は
危険だ……!!

ボク
どんな幽霊でも
助けてあげたい……

!





つぶね…
走馬灯じゃん！
子どものころの…
記憶だった

あのころは近所に
友達も多くて
毎日遊んで…
そうだよ
あのころの友達って…

……あ



思い出した…
昔の俺にとっては
霊的な存在って畏怖の
対象じゃなくて…
友達だったんだ

よ…寄るなッ！

皆…無邪気に見えても
なんだか苦しそうだったな
その中で自分は無力で
何もしてやれなかった…
けど

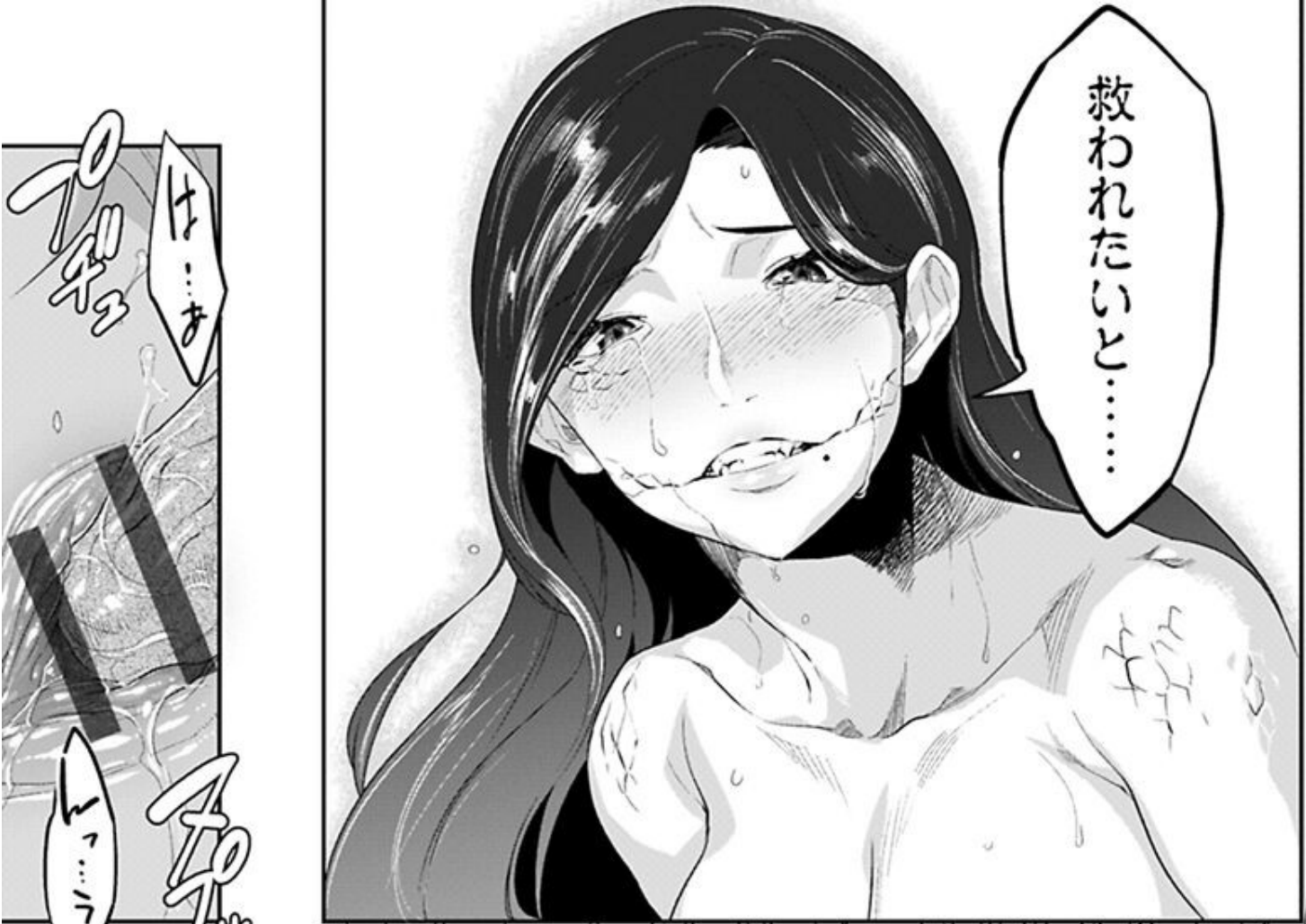


今の俺なら…

童…おまえは何者だ…？

おまえの精気を
取り込んでからだ…

胸がざわついて
救えないことを
覚悟してしまっ…





おっ...!

おっ

おっ

おっ

おっ

どうして……
こんなに感じて
しまうんだ……

おっ



おっ...



意外と……
かわいい反応
するんだね

おっ

おっ

おっ

おっ

私を人間と同じように
愛してくれているのか

そこか…童は

ハハハハ

ハハハハ

ハハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハハ

ハハハハ

ハハハハ

ハハハハ

ハハハ

ハハハ

んは…あつ
すみま…せんつ

ウ…ウじせマあ…
私イキ…ます

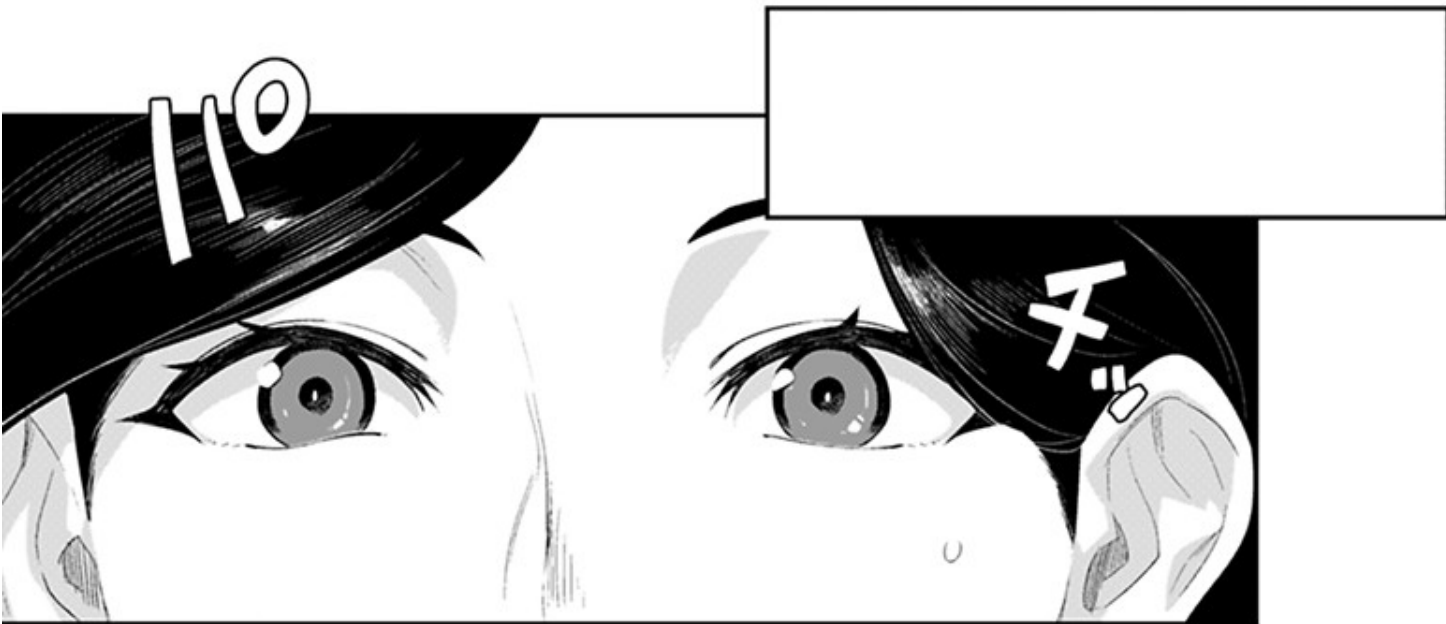
う…あつ

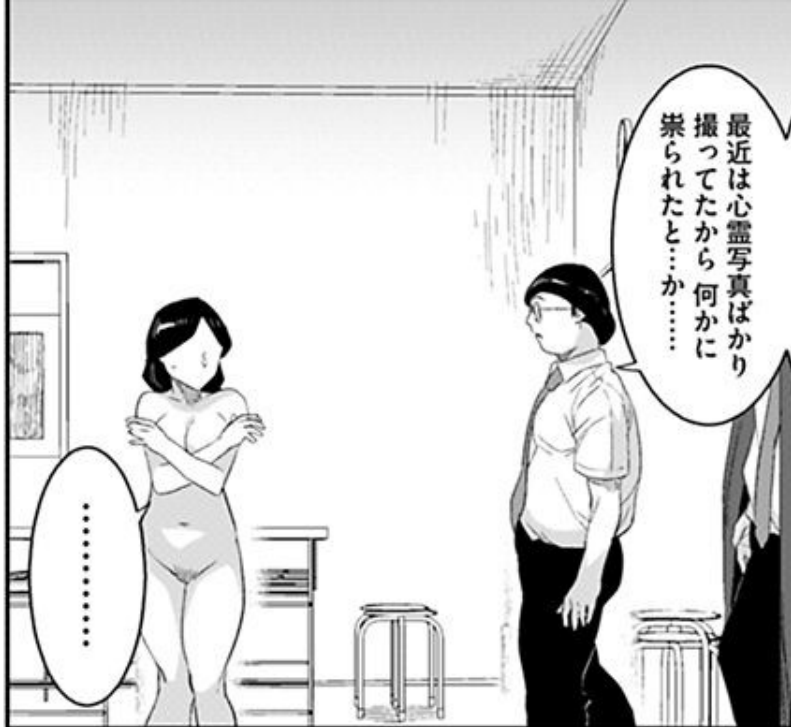
ハハハハ

ハハハハ









最近は心型写真はかり撮ってたから何かに崇められたと…か……

……



部屋に招待したところまではなんとなく覚えてるけどさ一体全体なんでこんなことに……



ええっと……
なんでこんな状況なのか
あたしにも
わからなくて！……

あの…丸岡君？



ヌードモデルの快諾
ありがとうございます！！

シャッター

シャッター

シャッター

シャッター

チャ

ウウウ

ただいまー

父さん
何やってんの？

うわっ

第6話 ◆
懐かしい祭り囃子の
音色は淫らな調べ

てかそんな量
ひとりで持って
けるの？

ああ夏祭り…

おまへ

今日の夏祭りで
うちは焼きそばの担当に
決まったからな

何って
焼きそばの下準備
だよ

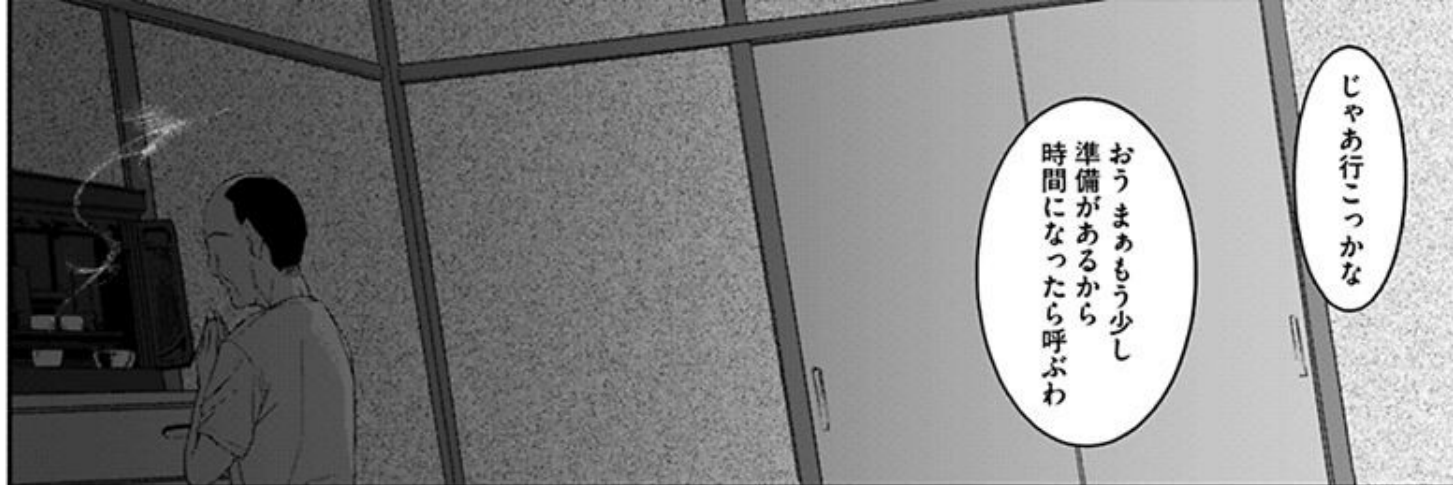
そうだなあ
親父が手伝って
くれるわけもないし

夏祭りかー……
子供のころは確かに
好きだったなー

んー…

昔はおまえも夏祭り
好きでよく行ってた
だろ？

靈介さえよければ
一緒に行かないか？



じゃあ行こっかな

おうまあもう少し
準備があるから
時間になったら呼ぶわ



お祭りなんて
向こうじゃ縁遠かったから
ちよっと楽しみだぞ

バクダン
キャンディーに
たいやきに
イカ焼き…

昔はあの子と
夏祭りに行くのが
毎年楽しみで…

……あれ？



「あの子」って……

誰だっ……
……け……？



大丈夫だよ

絶対にまた
会えるから



はいどうもー
300円ご
なります！



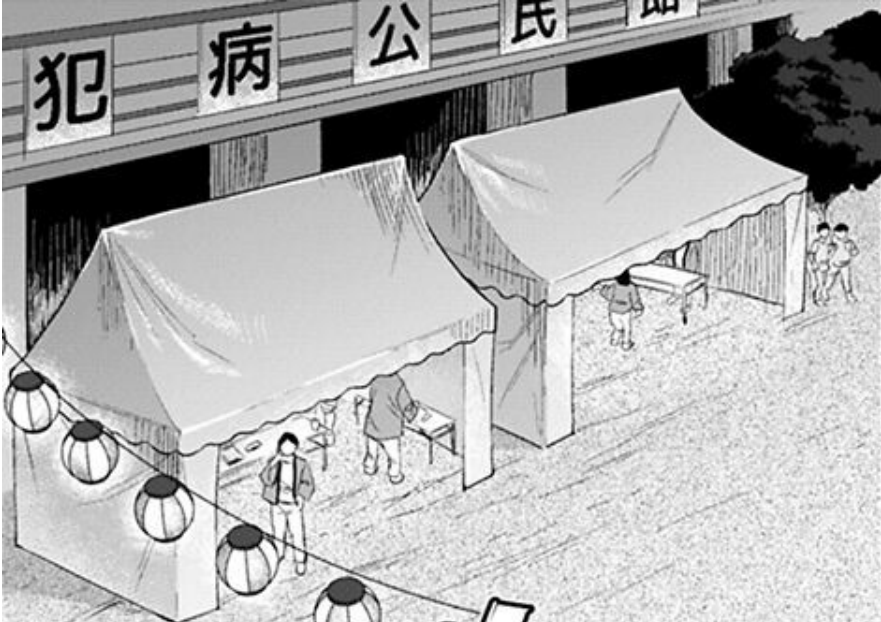
あーあ…これじゃ
全然見て回れないし
父さんの口車に
乗るんじゃなかったな…

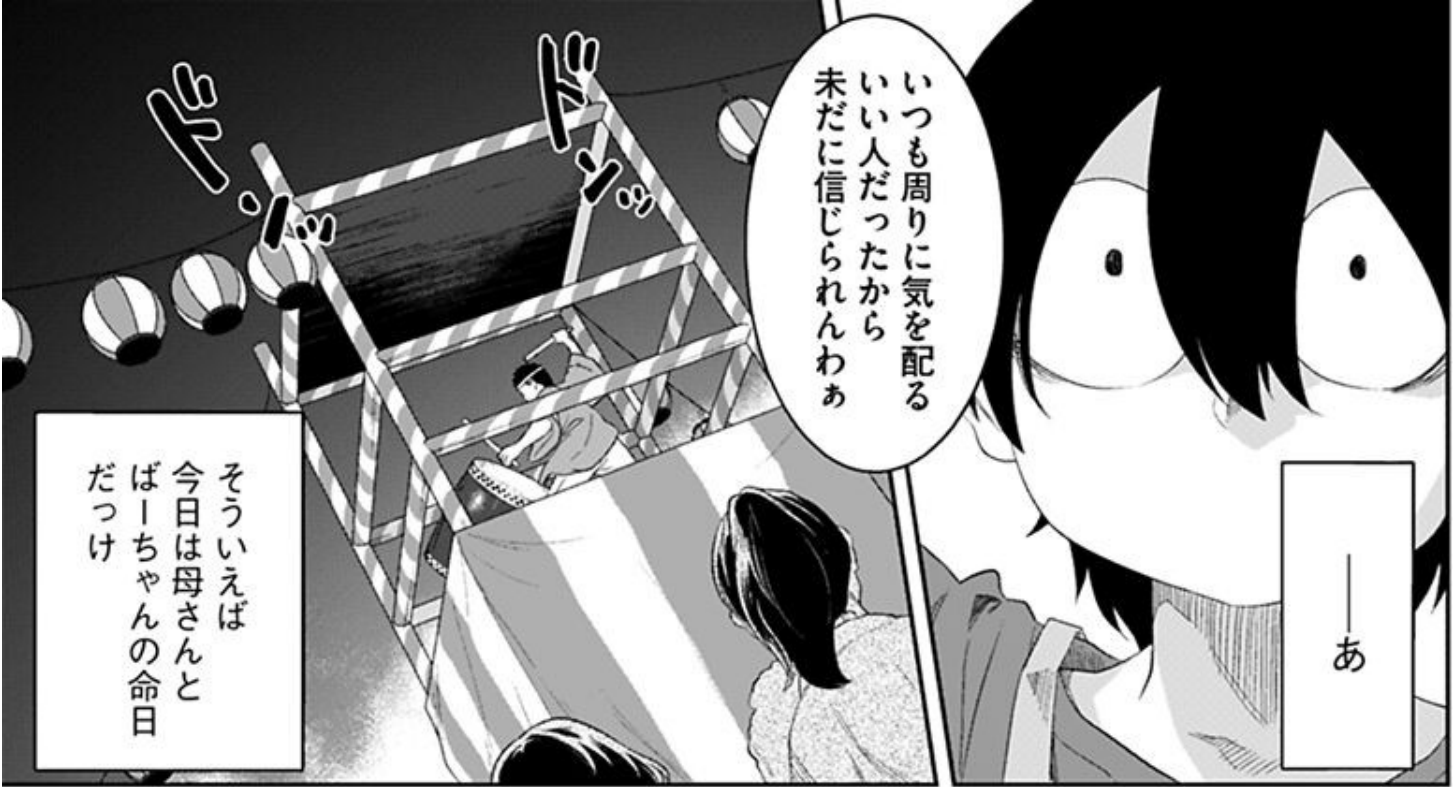


そんな小さい声じゃ
お客さん聞こえないぞ

おいおい…

あ…ありがとうございます
ございましたあ

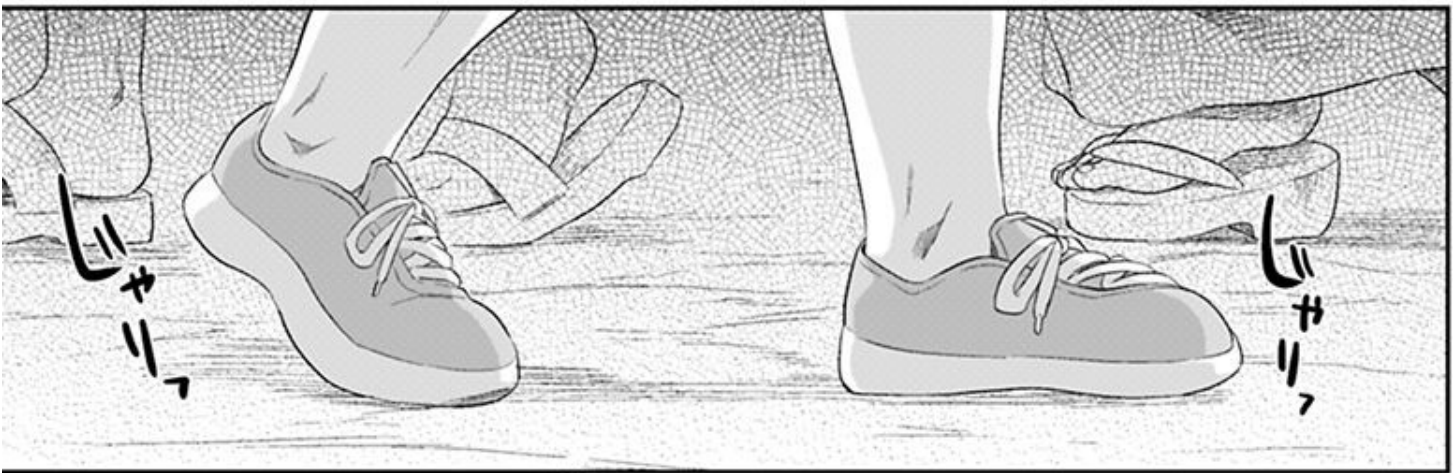




いつも周りに気を配る
いい人だったから
未だに信じられんわあ

—あ

そういえば
今日は母さんと
ばーちゃんの命日
だっけ



記憶にある
五穀豊穡のお祭りと
なんか違うんだよな！

前は場所も公民館じゃ
なかったはずだし……
もっと男だらけだった
ような

ソワッ

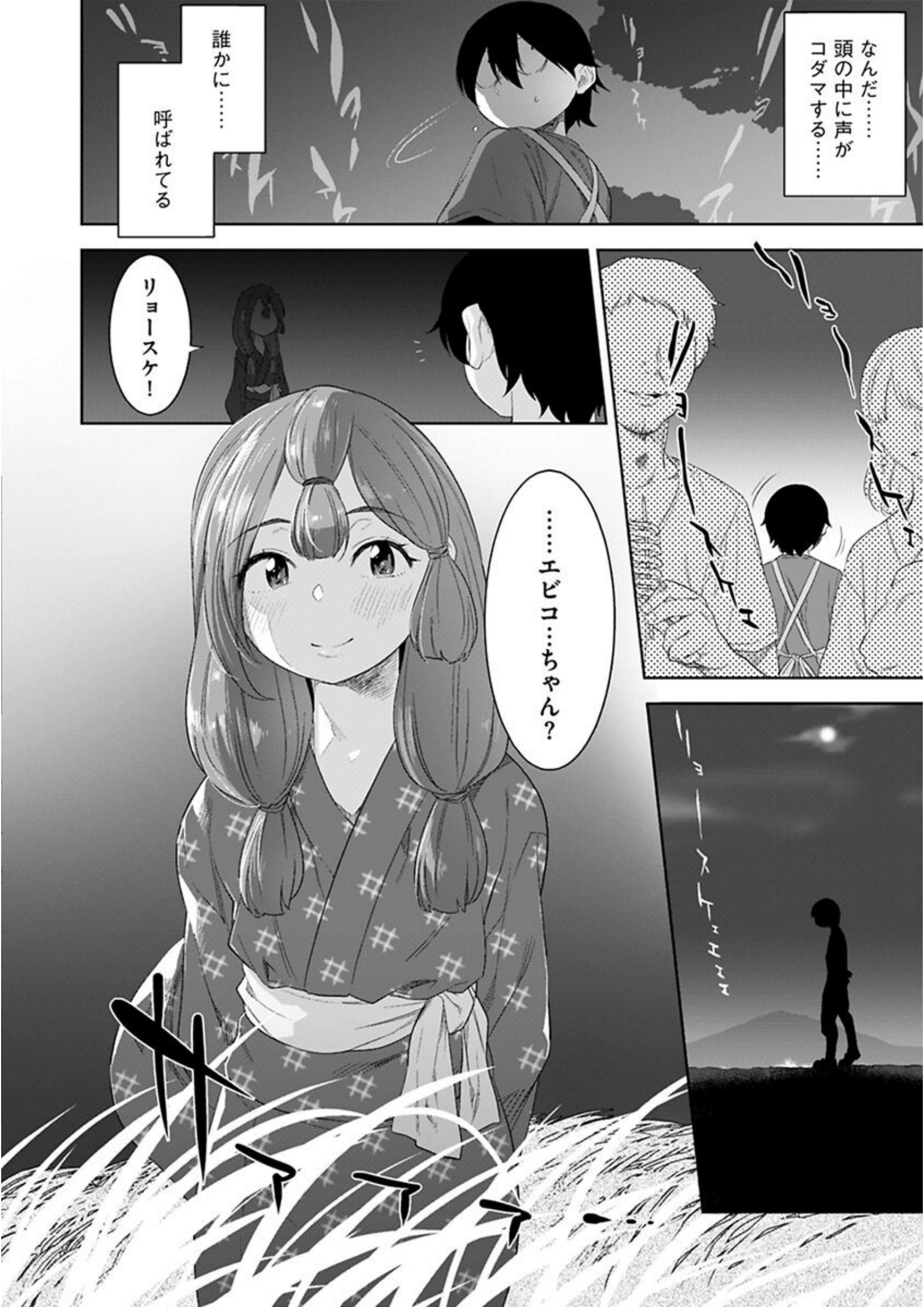
なんだ……
頭の中に声が
こだまする……

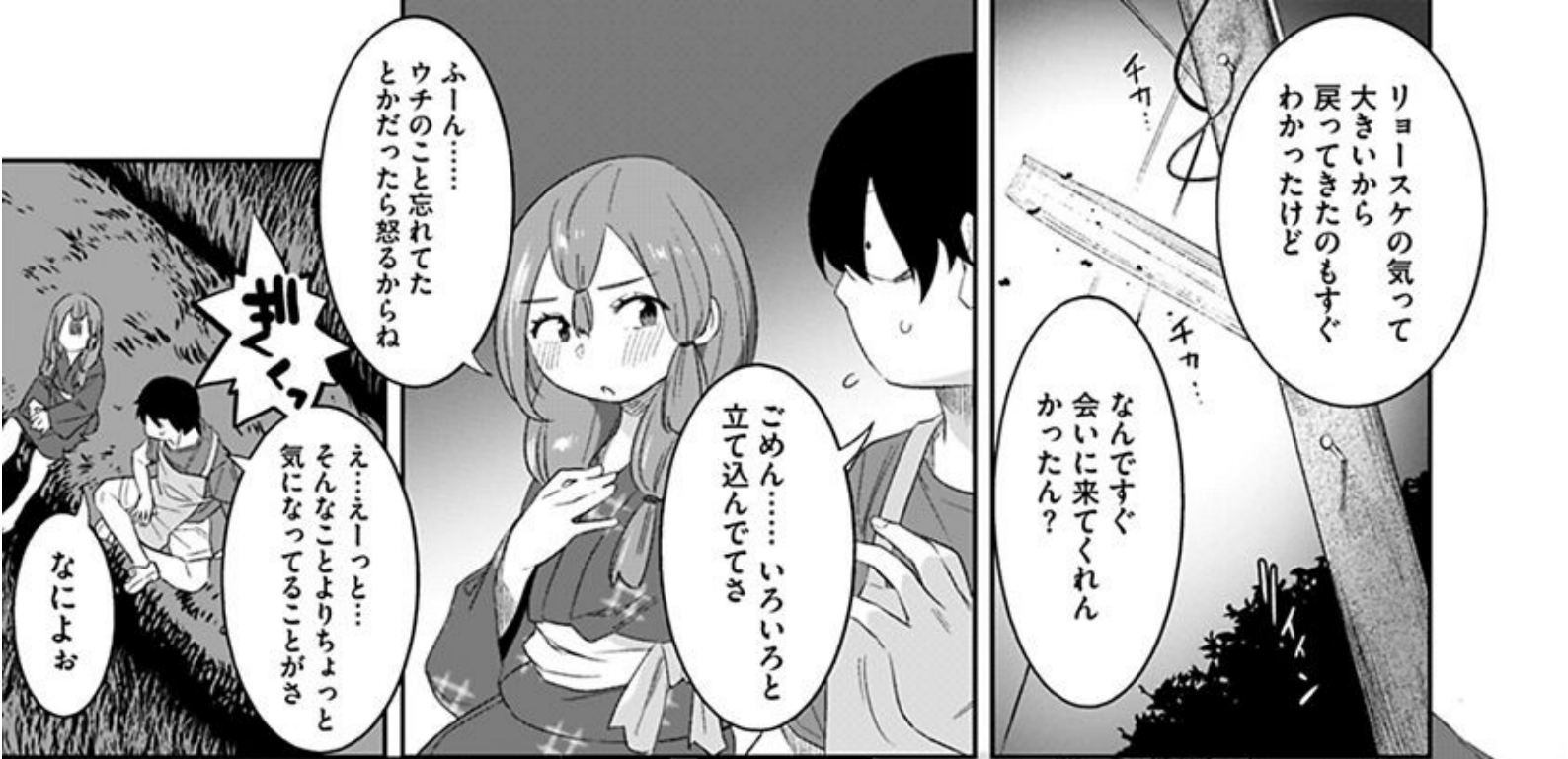
誰かに……

呼ばれてる

リヨースケ!

……エビコ……ちゃん?





リョースケの気って
大きいから
戻ってきたのもすぐ
わかったけど

キヤ...

キヤ...

なんですぐ
会いに来てくれん
かったん？

ごめん...いろいろと
立て込んでさ

ふーん...
ウチのこと忘れてた
とかだったら怒るからね

え...えーっと...
そんなことよりちよつと
気になってることがさ

おん

なによお



なんだかここ一帯に
妙な気が流れてない？
威圧感があるっていうか...

.....へー



やっぱり
リョースケって
霊感が強いね

その妙な気
って...多分
アレが原因だよ



遺体で発見
されたんだ

供魔山は入山を制限しています
山頂からの眺望が素晴らしいので
観光客の入山を制限しております。
山頂からの眺望が素晴らしいので
観光客の入山を制限しております。
電話：093-9133

確かあの山で
母さんとばーちゃん
は……



山……？

ひゅん

供魔山だ
くまやま



でも気をつけて……
この瘴気は少なからず
リョースケにも
向けられて……

供魔山から瘴気が
流れるようになって
この町の霊の様子が
変なんよ……



リヨースケが
出た時の感情が
込み上げてきて……

エビコちゃん……？

ッ……ごめん
リヨースケ……

ウチも今……
ちよっと変かも……

ウチ……腹立って
寂しゅーて
たまらんくて……



でも今はもう……
我慢なんてする
必要ないよね……？





臭いって
ことだがん!

へーなんか
干し草みたいな
かぐわしい香り

あっ
やだあ!



まさか
すごくいい匂い
だよ



はあ...エビコちゃんのおまんこ...
甘くておいしい...





指い...
入ってきてしもーた

んあ...あ...



エビユちゃん...
そろそろイク...よ



すごいね……
ウチに纏ってた
瘴気がリヨースケの
精気で消えた

やっぱりリヨースケが
町に戻ってきたことには
意味があったんだ

この力があれば
山の瘴気もどうにか
できるかも

いやっ……
俺にそんな
大層な力は……

うちはそう確信
しとるよ

それにほら
皆も応援
してくれる

俺が皆を救う……？

ウチはもうこのまま
必要とされずに
朽ちていく存在

それと
もうひとつお願い
聞いてくれる？

だったら……
リヨースケの力で
ウチを解放してほしいんよ



ねおねがい…



はぁ…

ウチは大丈夫…

それじゃあ
エビコちゃん
本当に…



あ…

ん…く

はぁ

あ…ん…



はっ

ガッ

はっ



うっ…キツキツだ
からだ
身体もまるで子供
みたいに小さいし

そりやそうか
エビコちゃんは
昔のままだもんな……



痛くない…?

う…ん
平気だから…
動いてええよ



この
バカガラス！

あつち
行けえ！



アッ

助けてくれて
ありがとう

エビコちゃん…



ウチはエビコ
きみ…カッコイイね！



えん…あ

えん…？



ごめん…やっぱり
エビコちゃんとは
もう離れたくない

リヨースケ…

心配しないで……
ウチはずっと傍らに
おるから

だからお願い
このまま最後まで…



あんっ

んっ

あゝ

クク…



ふんっ

ニん

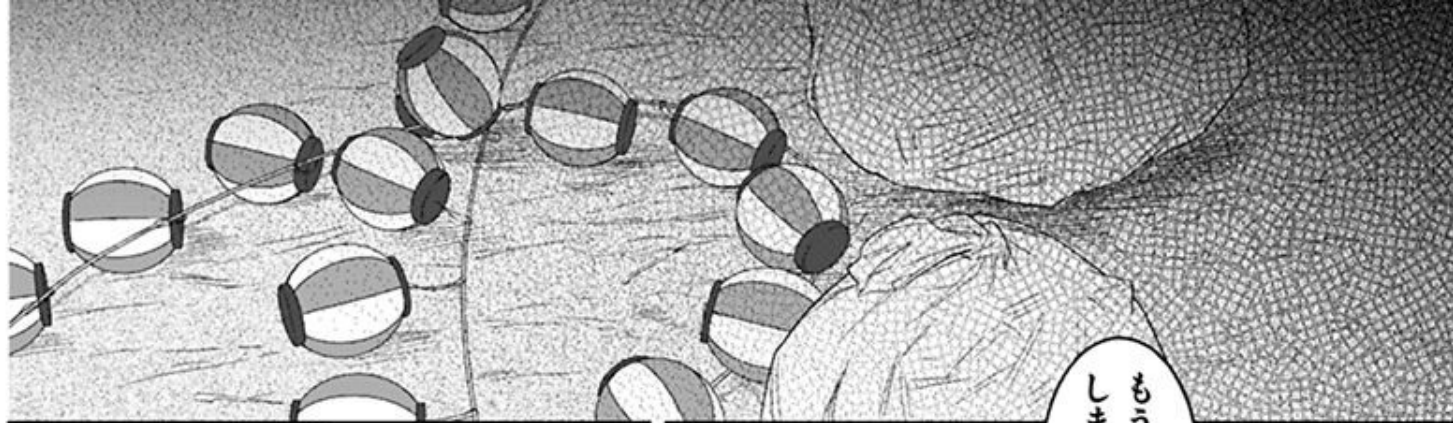
んんん

んん

んん

んん





昔の友達に
会いにね







俺だって祭りの片付けが
残ってたんだよ

それに今は
入山禁止の看板もあるし
大丈夫だろ……



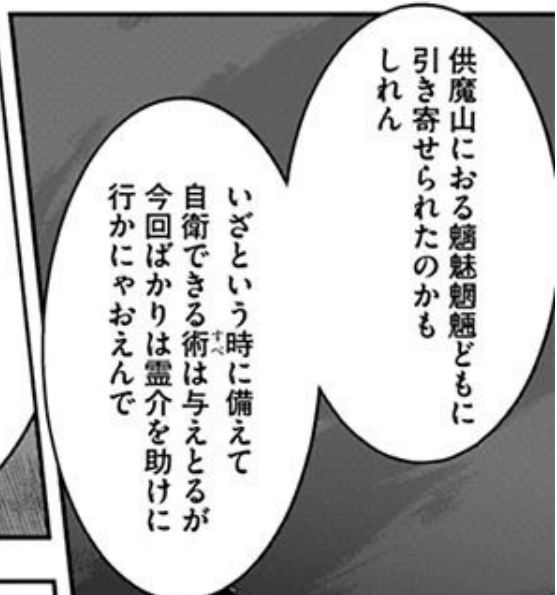
……びつくりしたあ

おめえ……それで
霊介が供魔山に行く言うて
止めんかったんか!?



あのさ……
供魔山はあんな事故があったから
近寄せたくないのはわかる
……ただそれをまた幽霊だなんだのと

霊介の教育にもよくないし
そういう妄想はいい加減
やめてもらいたいんだけど



供魔山における魍魎魍魎どもに
引き寄せられたのかも
しれん

いざという時に備えて
自衛できる術は与えとるが
今回ばかりは霊介を助けに
行かにやおえんで



ふん……
霊介にも同じことを
言っとったんじやろ

霊なんておらん
そねーなこと言うど頭が
変じや思われる

父親から霊の存在を
執拗に否定され続けとったんか…

どうりで霊介が幼少期の記憶を
ほとんど覚えとらんかった
わけじゃわ

あのころの霊介の遊び相手
っていやあ
ドラ猫か子供の霊か

「霊なんて存在するわけねえ」
おめえがそう思うんは
勝手じゃけどな

昔の思い出まで否定
されるんは
霊介が不憫じゃろーが



ほとんど朽ちちやってるけど
でっかい鳥居だなあ……

立派な神様でも
祀られてるのかな？



祟られても
嫌だし…帰ろうかな

コラ人間ッ！

ここまで来て
帰ろうとすんなっ

オマエが来るのを
ずううつと待って
いたんだぞ

？



脅威になりそう
には見えないけど

でも確かに強い気は
感じる感じる♪

タヌキ……？

なんでじゃッ！



あたいは傀割様の
使い魔にして供魔山の番人

ちょっと…あたいのどこを
どう見たらタヌキに
見えるってえ？

名は郷狸^{サトリ}ってんだ

ガ
レキ



なんだかややこしいのが
出てきたぞ……
番人ってなんだ……？
それに…ククリサマ……？

この町を覆う
瘴気は傀割様が発している
もの……

この町に入ってきた
ひとりの人間が原因でね
傀割様はその人間を異物と
して見ているんだけどね



そう狼狽
するんじゃないよ

傀割様は
この供魔山を
統べる巫女であり
神なるお方さ

アンタが
その人間ってワケ

キョーッ

えっ
お…俺…？

だから
アンタのその強力な気が
傀割様を警戒させてんの

普通の人間と
精気の質が違うから
あたいらには毒に
なるんだってさ

普通の人間なら干物になるまで
搾り取ってあげるんだけど

残念ながら
止められてるからね

皮を剥いで
傀割様に献上かな

カッ
カッ
カッ

ヤバイ……
これは話が通じない
タイプだ

早くこのタヌキから
逃げないと……

……だからさ

タヌキじゃないッ
つってんだろオ!!

あ…これ
ヤバイかも……

マジで死……

なんだ…?

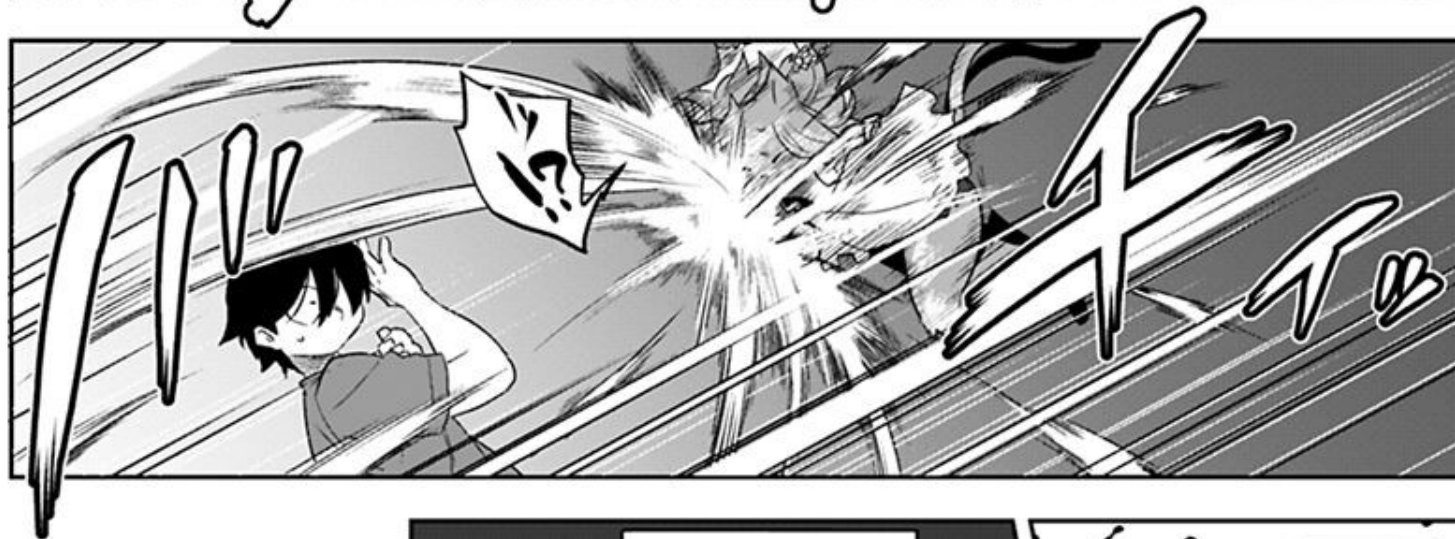
今オマエ…
何をした?

…あれ?

まあいい……
あたいには傀儡様から
授かった力がある

この「どくしんがん読心眼」が
ある限り
あたいは無敵だ

さっきは感情的になって
心を読み損なっただけ……



——ツまた弾かれた

この人間……
何か巨大な存在に
護られているっていうのか？

それも
こいつの意識でやった
ことじゃない





くそっ
なんだよこの札…
力が…入らない

人間の分際で
あたいをこんな目に
遭わせやがって……

君のご主人様…
傀割様の居場所を
教えてくれたら
解いてあげるよ

じーちゃんに渡された
お札…持ち歩いてて
よかった



はんっ…お断りだね

そもそも主を裏切る
使い魔がどこにいる
ってんだよ

そっか…
どうしてもダメ
かあ……

当たり前だっ

ゆん

クキ

クキ



って…オイ
オマエ何考えて
んだ……

待て…
近寄るな…



こ……こんなことで……
あたいが傀儡様の居場所を
吐くと思ってるのか……？

懐かしいなあ……
昔も近所の野良猫のお尻を
こうやってよく叩いてたっけ

……思ってた
いるんだな

言っておくが
殺されようが
吐かないぞ

そんな物騒なことは
しないって……

俺は君に
気持ちよくなつて
もらいたいんだよ

うん
ここの準備は
できたみたいだね

もしかしてオマエ
あたいとまぐわう
つもりじゃ……

そのつもりだけど……
嫌だった？

安心してよ
優しくするからさ

嫌というか……
オマエこそ妖怪
相手に抵抗は
ないのか……？

それに……あた
い搾取対象から
求められるのは
初めてで……

じゃなくて……
やっぱりダメっ！



んぐらッ...

アッ...

あっ...んはあっ

この山に迷い込んだ
瀕死のあたいを
使い魔として転生
させてくれた傀割様

あの瞬間から
あたいは傀割様に
忠誠を誓ったんだ

だからこんな人間の
こんなイチモツごときに
負けたりは...でもッ

あたいの腔内を
往復するたびに...

コイツの強烈な精気が
体じゅうを駆け巡って...

アッ...

あ...

あ...
あ...
あ...

アッ...

アッ...

アッ...

アッ...

アッ...



そ…そんな裏切り…
あたいには……

あたい…
あたいには…

はあ…く…
傀刳様…
う…



あのさ…こんなこととして
今更かもしれないけど

本当に俺は
君も…その傀刳様も
傷つけようだなんて
思っただけで……

その…

この人間…
嘘は…ついてない

むしろあたいや
瘡気で苦しんでいる
怪異たちを



救おうと必死なんだ

…わかった
傀刳様の所まで
案内するよ

約束する…
だからさ



この人間の精気が
毒だと言った意味が
わかった気がする

傀奇様が……

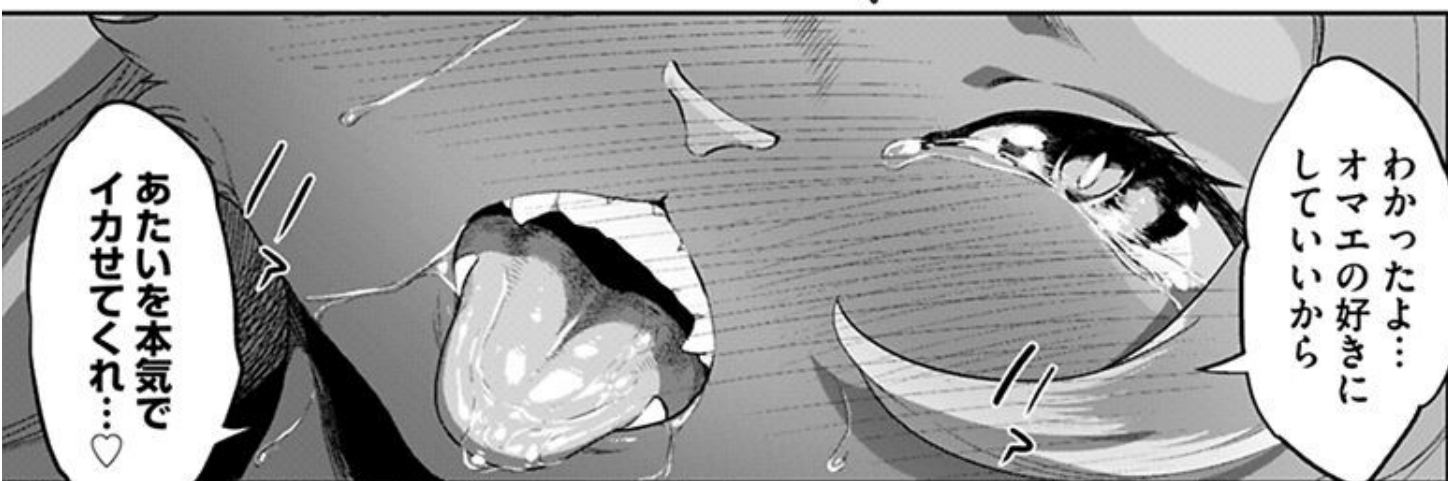
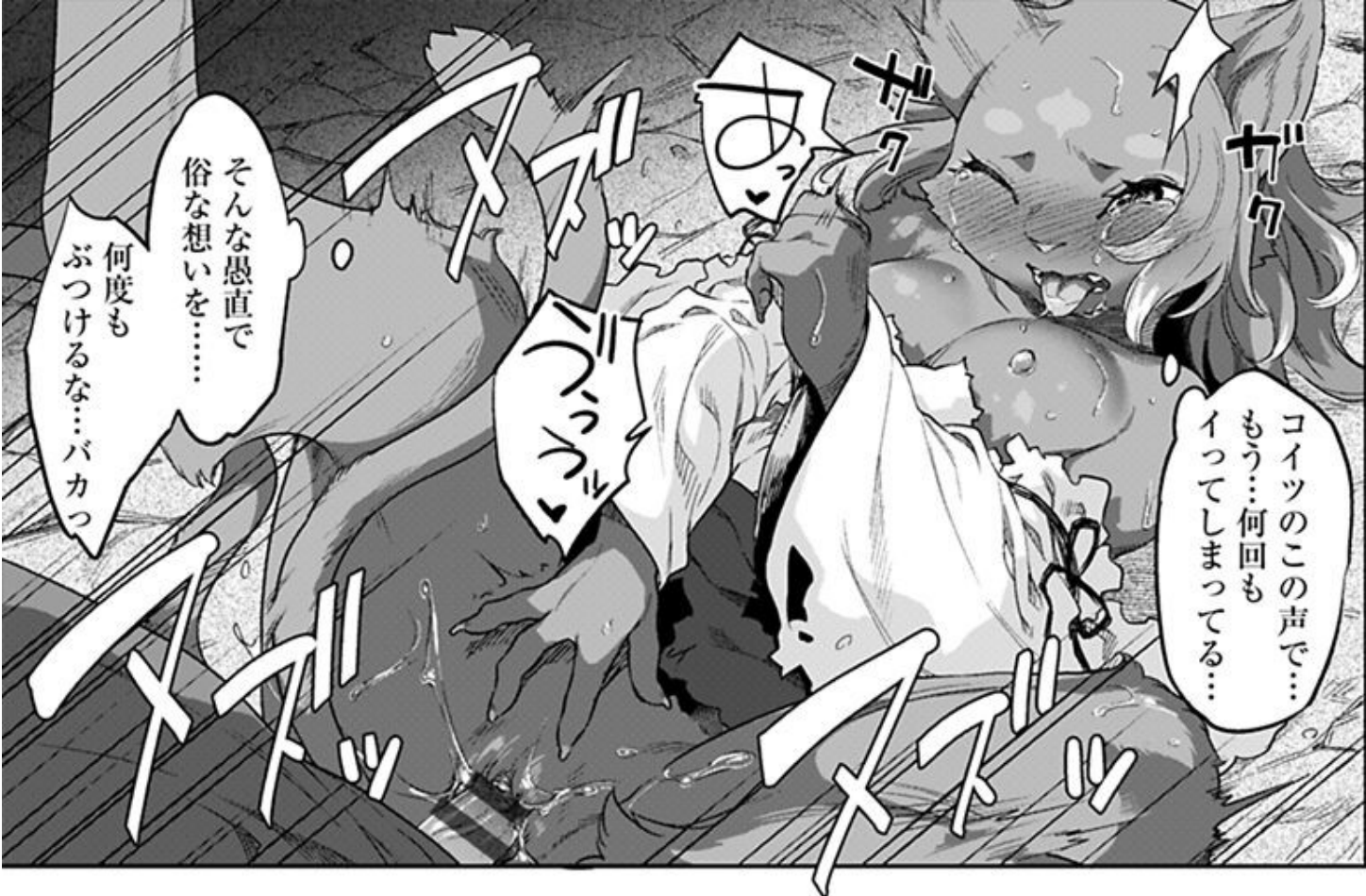
体じゅうの邪気が
浄化されていき
代わりに幸福感で
満たされる

どんなに赦ゆるされないことでも
すべてが赦されるような
そんな感覚になってしまう

あたいには
それが恐ろしい

やっぱり君の顔
もつと見たいかも

いめん…





あ……

ここには傀割様によって
殺された人間たちの
靈魂が残留している



しかしそれらは
傀割様の本意ではない…
だから今も尚^{なほ}あの方は
苦しんでいるんだ

うわヤバッ！
俺ちよつと
気を失ってたよね…

トキッ

でも
この人間になら
あるいは—



？

感謝しなよ
アンタが気を失ってる間
寄ってきた悪霊どもから
守ってやったんだ

まぐわい中に聞こえてきた
アンタの気持ち
正直悪い気しなかったからさ
この先もあたいが守って…



なーんだ

でも俺の
気持ちって…?

ありがとう
本当助かるよ

………



さて……
約束だからね
案内するよ
傀儡様の所まで

思ってたより
イロオトユだった
ってワケねー

つづく

おわり

昭和29年

敗戦の傷跡が癒えて久しく
国民は活気を取り戻し
生活は豊かになり
平穏な日常を手に入れた

その一方で当時は
「ヒロボン時代」とも呼ばれ
法で規制されてからも
流通が絶えることはなく
社会問題となる

第8話 ◆ 妖刀の姫に 魅入られた青年

現代より遥かに
不安定で不透明な時代
そんな時代に
青年 鬼村茂は生きていた

おっはよー！

もっとカネを
稼いで…それで…

カネじゃ…

ヤッ

頑張つとるねえ
新聞配達員さん

弘美か……
やけに早えな

テニス
庭球の朝練
試合も近いからね

この寒いのに
よーやるわ

それは
茂君も一緒でしょ

お母さんも
ぼっけえ褒めとったよ
毎朝頑張つとるなー
ってさ

おお……

そーいやおばさん
朝よお散歩しとるな

茂君も何か
部活動始めれば
ええのに



…なんてな
そんな自問自答も
恨み言も
正直もう飽きとする

一応俺にも
夢はあってさ

もっと稼いで
いつか食堂を
開きてえんよ

女もガキも
俺みてえな貧乏人も
皆がたらふく食える
食堂を…って

まあ…今はその
夢が糧じゃ
叶うかどうかは
別じゃけどな

叶うよ

叶うに
決まっとるわ！

お…

変なヤツじゃで



それじゃあまた
学校でね

たっ たっ たっ

.....

この先はおえんで
昨日の台風で
土砂崩れが起きて
しもうてな！

残りは
山向こうに住んどる
人たちじゃけど.....

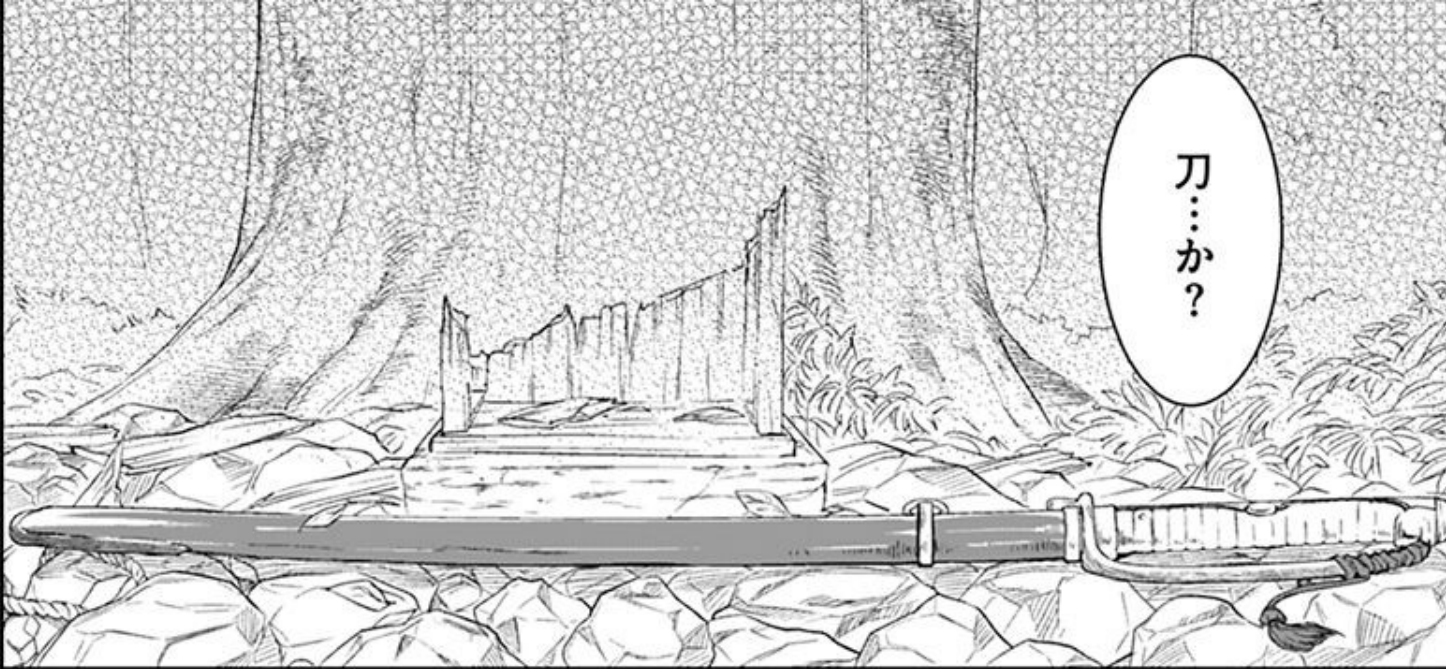
ヒラッ

おお？


獣道から迂回しよう
って考えは
浅はかじゃったか...

麓に下りてから
下道通るにも
時間が掛かるけえ

110キ




刀…か？




おいおい
なんでこんな
もんが…

しかも日本陸軍の
軍刀じゃで

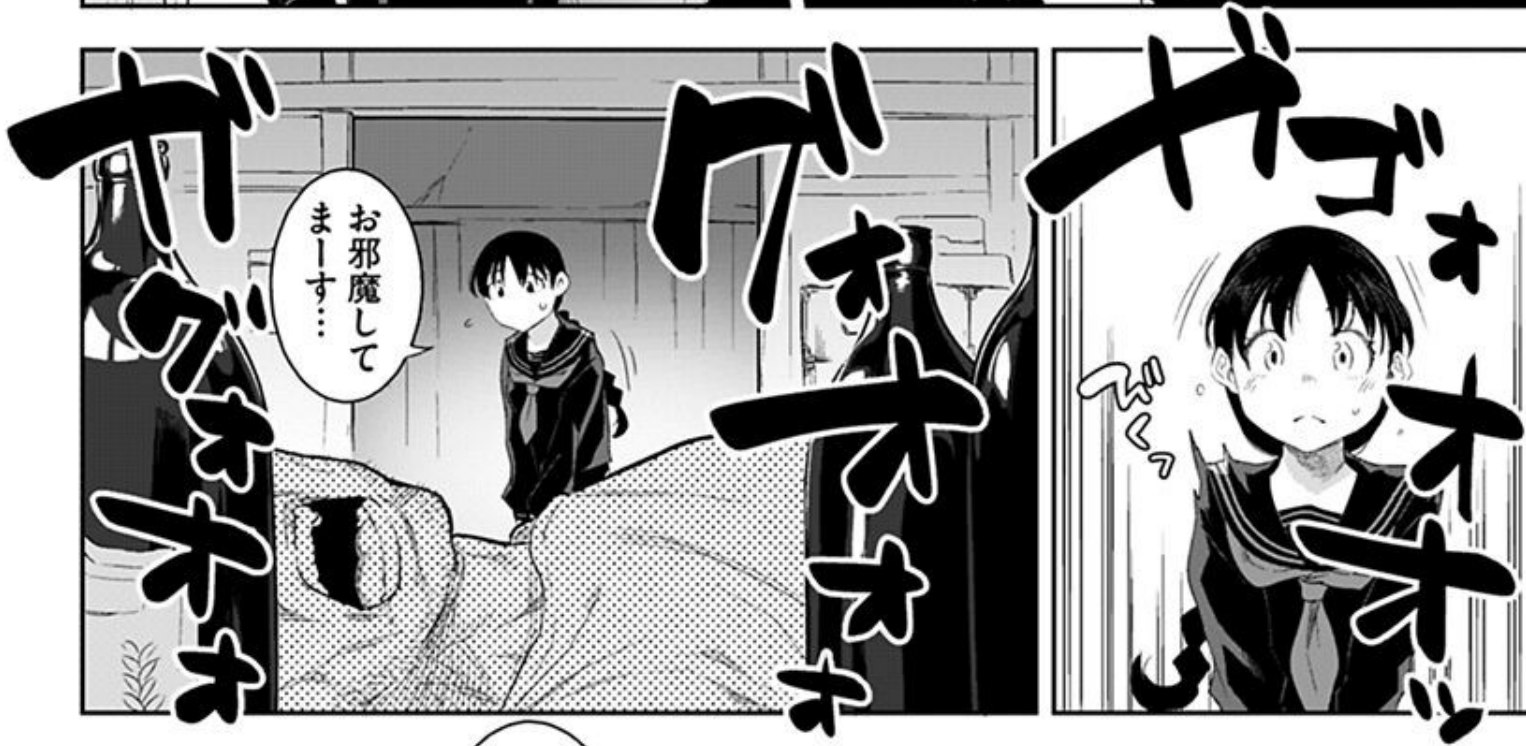


……
待てよ…



こいつ…蚤の市で
高お売れるぞ







ああ…そっか

はっ

はっ

はっ

はっ



なんなんこれ…

はっ

はっ

はっ

はっ

そうじゃな…
ずっと辛^{つれ}え目ばかり
遭^あうとつたら

生きるのも
アホらしゆうなるわなあ

……

はっ

はっ

一体何が
起こ^おこつてるの？



キヤッ
キヤッ



お...おお...
弘美か...

スマンな...
情けねえわ



楽しんでカネを得ようと
してしもうたけえ...
バチが当たった



この軍刀には怨念みたいなの
もんが取り憑いとった...
さぞ業の深い刀なんじゃろ

じゃけどこいつの
感情は伝わってきてな...
恨みもあるが
それよりも...寂しくて
たまらんらしい



そんな同情した気持ちを
見透かされて
つい約束をしてしまった

死ぬまでおまえと
添い遂げてやるってな

寂しいって気持ちは
わからんでもねえ…



茂君……
何…言っとるの？

そん…そんな
訳わからんものに
絆はだされとる場合じゃ…





奇妙じや...

7回も
射精しとるのに...
まだまだ射精し
足らん.....

もっとと.....
もっと抱きてえ.....



もっどじや.....



ぬるる





※あちら、主に外国人を指す



わしの鼓動が
ヤケにうるせえ…

もしかして
この霊にときめいてる
のか……？

次の射精に
この気持ちに乗って
しもーたら
それが最期かもしれん……



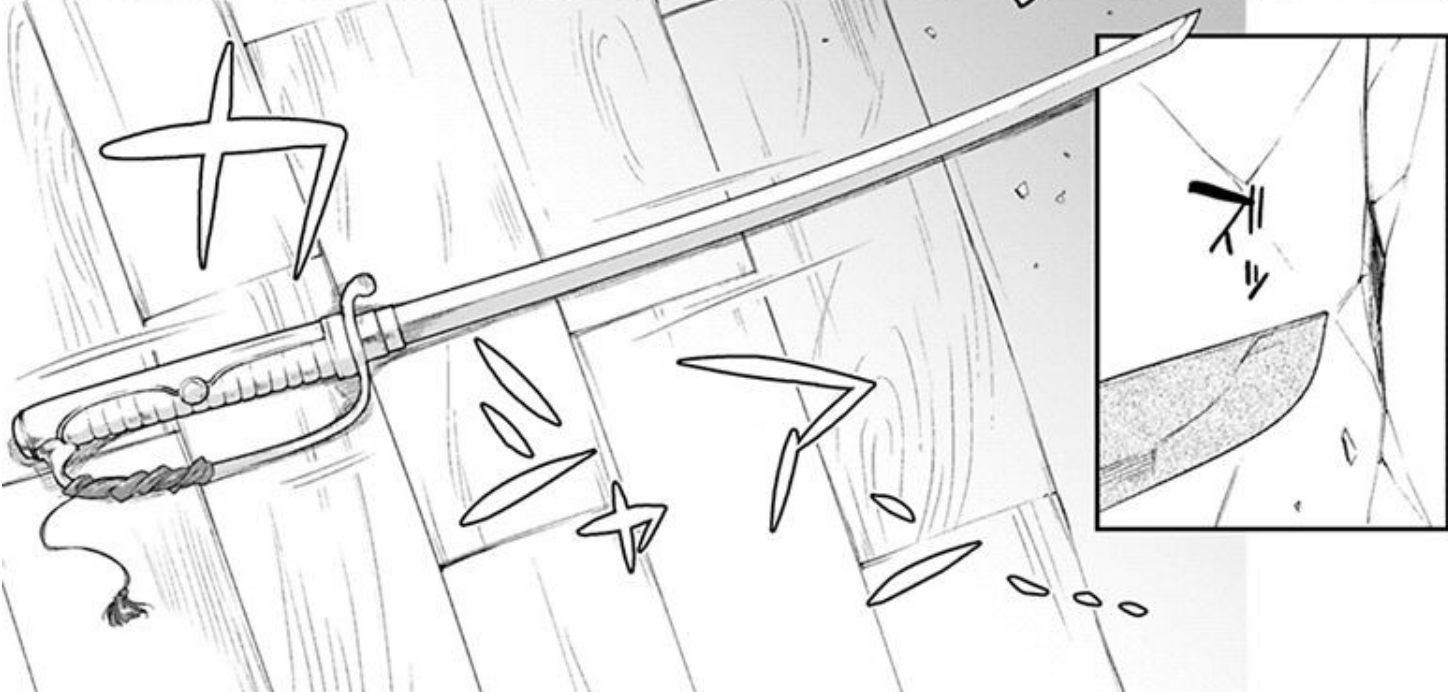
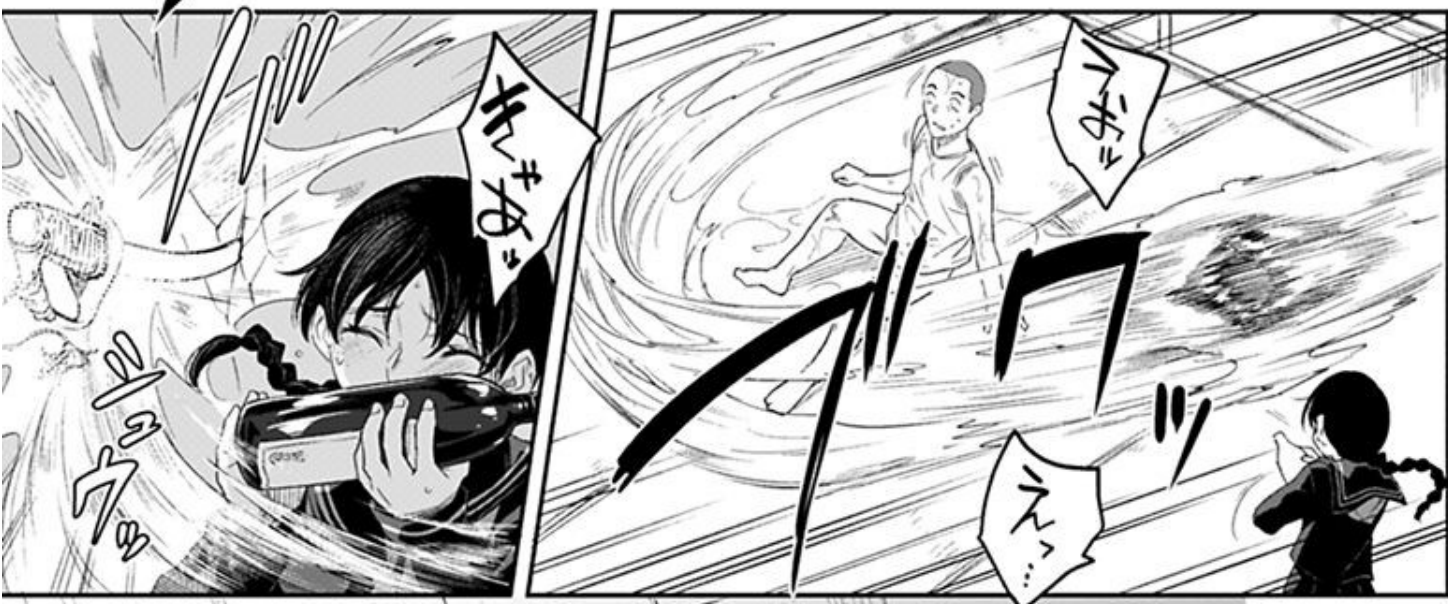
でもおめえみたいなの
べっぴん抱きながら
死ねるんなら……



或いは……
いい人生じゃった
って……言えるかもな

ブルッ





お酒お酒

お酒……
効いてよかったあ~~~~~

クソ親父の
酒が初めて
役に立ったな……

さ……鞘っ！
鞘に戻さんとツ！

ううんっ！

それから
わしと弘美は相談の末
この妖刀を元の山に
埋めることにした

この供魔山に

つづく

昔の話だが
この土地は元々
人身御供の慣習が
あったらしい

ある時
賢の巫女が不足して
急遽巫女に仕立て
上げられたのが
傀割様だ

しかし本物の巫女では
ないと知った山の神は
激怒してしまい
傀割様は呪いによって
妖怪にされてしまった

最終話 ◆ 涅槃を求め妖しく 惹かれ合う陰と陽

だが山の神にはひとつ
誤算があった…
妖怪になったあの方の
力を見誤った事だ

傀割様の強烈な
「陰」の気は山の神を
屠る事も容易かった
そうさ

テテ…もう少し
ゆっくり歩いて
くれないかな…

こんなの
ほとんど獣道
だよ…

全く世話の焼ける…
案内しろと言ったのは
アンタだろ

辛抱しろ
もう直に着く

とにかく…それ以降
傀割様は新たな
山の神として崇め奉られる
様になったが

大丈夫かな…
何だか恐ろしい神様
みたいだけど…

ありがとう…

その力から
ニンゲンからも妖怪からも
恐れられる存在になった

…お優しい一面も
あるんだ

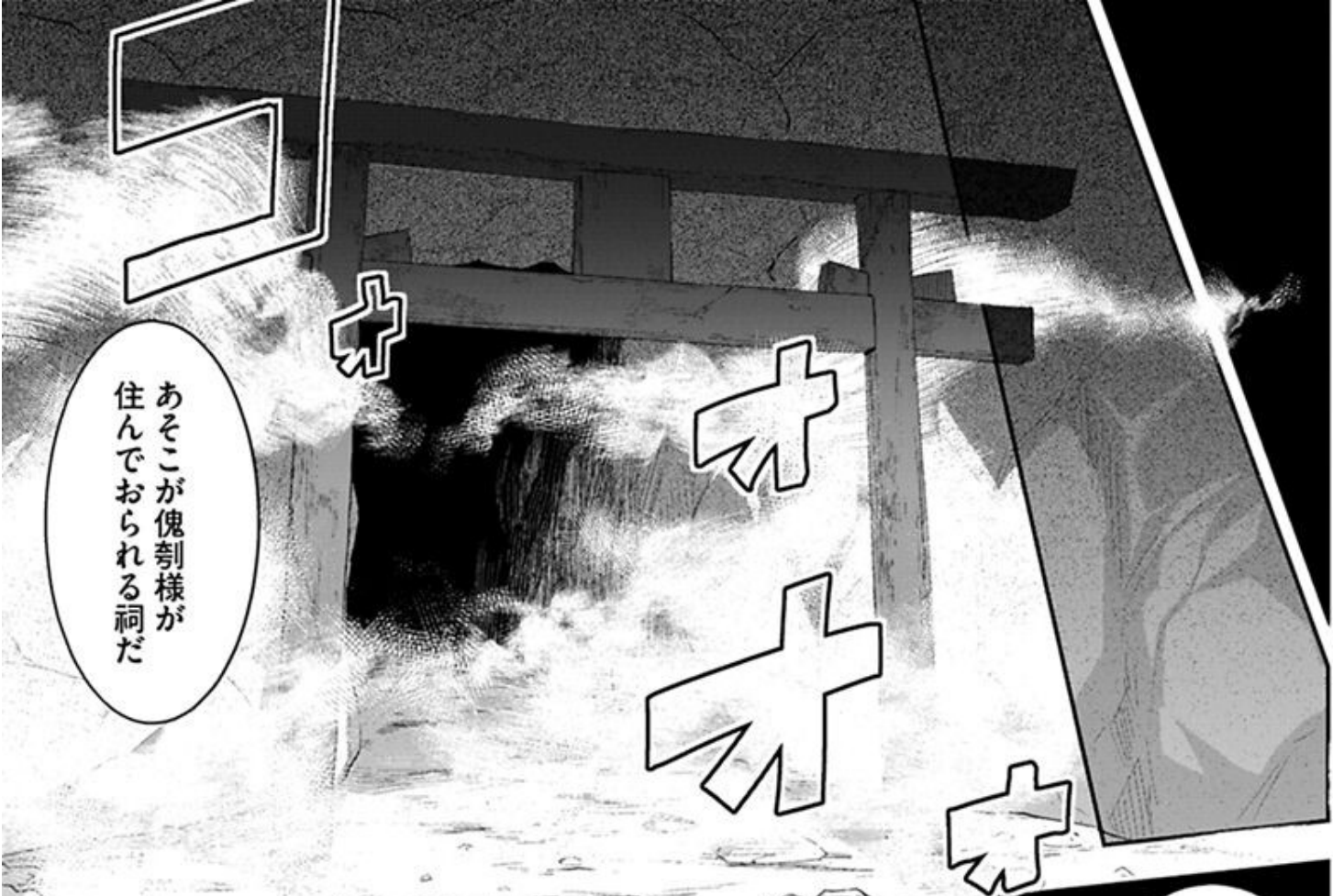
だが…
確かに恐ろしい
ニンゲンが供物を
捧げなくなつてからは
日々その怨念は
強くなつておられる…

供物を捧げなく
なつた…？


そうだ…
事が起きたのは
10年前の
五穀豊穰祈願祭
ごこくほうじょうきがんさい

かつての名残で
当日の女人の入山は
厳禁とされていた


しかしあの日
入山した女人が
ふたりいたんだ




あそこが傀剥様が
住んでおられる祠だ




いいか？
今が精気不足で
いくら弱っている
とは言え



決して気を抜いて
良いお方ではない…
気を付けるんだ



郷狸…
誰が元凶を連れてこいと
言いんした？



それは…わっちに對する
謀反と捉えてええんかえ？

誠にお主は
たわけ者
金茶金十郎よな



ニンゲンを傀剗様に
献上するため
活きの良い状態で持って
きました!



そそれは誤解です
傀剗様...!!

郷狸よ：
わっちにそんな嘘が
通用すると思っとるん
かえ？

ギョ
ッ

これまで受けた恩をも
忘れてしまうたなら：
そのニンゲンと一緒に
踏み潰してやろうぞ



グ
ッ
オ
オ

狼狽するなニンゲン
大丈夫だ！

お前の守護霊を：
彼女たちを信じろッ！！







君達は…ッ



「また会える」
って



言ったでしょ
リョースケ



ぐっ

なんじゃ
お主等は!?

ドクンッ

無駄よ
坊やの気を纏った
あたしたちに敵う
ワケないでしょ♡

霊介クンの邪魔を
するなーっ!



だがその影響で
傀剥様はかなり消耗
しておられるはず

ソレは傀剥様が
霊気で操っていた
単なる岩に過ぎない

心配するな



うわあっ!
神様倒しちゃったよ!
大丈夫なの?

行ってこい…

あたいが案内
出来るのは
ここまでだ

人間め…
忌々しき人間め…
よくも神であるわっちを…

しかし…郷狸以外の
妖怪も懐柔して味方に
付けるとは…驚いたぞ

いやあ…俺もイマイチ
状況を理解できてない
んだけどね

とにかく…
一度落ち着いて話し
合えないかなーって



人間風情が偉ぶりおって…
誰に物を申しているか
分かっておるのかえ…

いくら弱って
おっても
お主を屠る程度
の力は残って…

ええッ
いや俺は…



まあまあ傀割様
そう強情にならなくても
良いのですよ？

ト…ト…ト…

白蛇ッ？
お前…使い魔の
分際で何を…



こんなに強い
「陽」の気を眼前に
しているのです

ほら…乳首も大きく
腫れ上がって
体が疼いておられる
んでしょう？

傀割サマの強力な「陰」
そして童の強力な「陽」
相反するもとてつもない
引力で惹かれ合う存在です

とどのつまり…



男と女です



く...だから
お主には近寄らせてく
なかつたのだ...

やはり今の内に
殺し...



おとなしくしてれば
悪いことなんて
起こらないから



心配しないで
いいよ神様

さあ…準備は出来てる
からいつでもいいわよ
坊や

解けぬ…ッ

ね…早くう

ほら…霊介クン

リヨースケ!

与太郎め…

こんな狼藉ろうぜきを働いて
碌ろくな死に方はせぬぞ…



お主の末代まで
崇めてやる…!

ちよつとや…

決して浄化できぬ
呪詛をこの町全体に
振りまいてや…

静かに
してくんないかな

この人間…



理性を失った
ケダモノの顔を
しておる

わっちを全力で
犯しに来ている
のか…!!

しかしわっちの
からだはこやつ
の精气を……

イチモツを
すっかり受け入れて
しまっている……

すっごいピストン……
今日の坊や
容赦ないわねえ

やっぱり
あの話を聞いた
から…?

入山した女性…

傀儡様が
正式に供物を
受け取る日だ

彼女たちを贄として
認識するのは
至極当然だった…

待てよ…

それじゃあ
母さんとばーちゃんは
やっぱり…

彼女は俺の家族を
ふたりも手にかけて
妖怪なんだぞ

それなのに
なんでこんな感情
が…

いや……
感情以前の衝動
かも

この人を

おのれ
人間風情が…

こうなれば
死なばもろともじゃ…
残った最期の力で

傀剥様ッ…!

あ
犯したい

キユ

たぽん

たぶさ

ノ…ス

たぽん

たぶさ

キユ

キユ

らっ



郷狸…お前

今更何用だ…



お待ちください…!

そのニンゲン…
私や傀割様を助けたい
一心で危険も顧みず
ここまで来たのです…



傀割様が眼の前で
辱めを受ける姿は
見たくなかったので
外におりましたが…

嫌な予感が
してしまっ
つい…



おいニンゲン…
あたいはお前に託したんだ…
性衝動ごときで
自分を見失うんじゃない

う…



傀割様…
何も恐れることは
ございません

このニンゲンは
今まで傀割様が
出会ってきた者たち
とは違います



信じてください…
あたいの言葉を



何かおかしいぞ…
お主の精気が
わたちの身体を蝕み
始めたのか…

あ…
熱いのだ

頼む…
もっと激しく
突き刺してくれ

はぁ
はっ

はぁ
はっ

はぁ
はっ

はぁ
はっ









えろう長い夢を
見ていた気がしんす

妖怪として生まれ
変わったあの瞬間から
あらゆる物に対する
憎悪がいつも心に
渦を巻いていて：



それが自分足らしめる
ものだ信じて
わっちはそう或るべき
だと信じて

それでも日々暮る憎悪の
先には何もなくて
あるのはただ孤独だけ…

思えば何かを信じ続け
何かに裏切られ続けた
人生でありんした…

誰でも良い
ただ誰かに愛され
必要とされたかった
その願いが叶うなら
わっちは…





えッ…

あ…あ…
……ッ!

ガッ
ぱっ



…ちゃん

りょうちゃん

……ん



アンタの精気は
傀剝様を成仏させるには
至らなかつたが
強力な呪いを祓うことは
出来た…

この山ごと傀剝様を
縛り付けていた陰湿な
ものさ

それが解けた今
山に留まっていた靈魂を
縛るものはなくなった



母…さん？

りようちゃん
覚えてる？

りようちゃんが
小学校に上がった
ばかりの頃かな

幽霊のお友達のことを
お父さんに喋ったら
怒られたことあった
でしょ？

お母さん幽霊とか
よく分からないけど
泣きペソかいてた
あなたに言ったの

幽霊でもなんでも
大丈夫だから
良いお友達をたくさん
作りなさいって

そしたらね…ふふっ
僕頑張るよって物凄く
張り切っちゃってて

ホント…
よく頑張った
わね

良いお友達
沢山出来たじゃない
りようちゃん

まっ…

は

お母さん





傀刃様…

少し風に当たって
来る

郷理は人間が起きるまで
傍にいてやってくれ

初めてだった…
傀刃様の心が
覗けなかったのは



妙な胸騒ぎを
感じる…



不可解な妖気と
わっちに向けられた
殺気を追って来ては
みんしたが…

それは一体なんで
ありんすか？

悪霊ごとき
答える筋合いは

無え

せいぜいここで
罪を償えや

大人しゆうするなら…
供えもんくれえは
なんとかしちやる

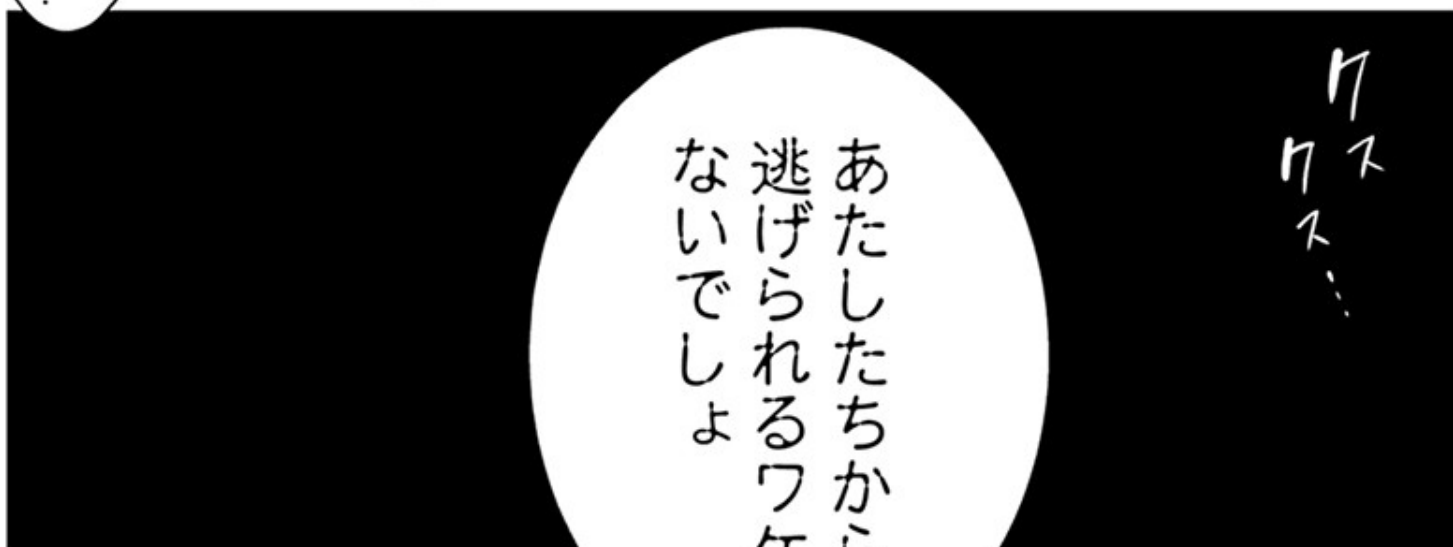
ただいまー

さつきな…

お前らの帰りを
待っている間…
ふいに和子の声が
聞こえた気がしたんだ

俺ちよつと
今日はヘトヘトに
なっちゃったからさ…

先にもう
寝ることにするよ



おとがき

どうも、んめと申します!
この度は「化けケケ」のお買い上げ誠にありがとうございます。
楽しんでいただけましたでしょうか?

今回2冊目の単行本となるのですが、前回の本は過去に同人誌として描いたものをまとめた作品集になるので、今回の「化けケケ」が実質初単行本ですね!

さてさて、この「化けケケ」を通じて一番痛感した事としては「連載作品って...めっちゃ難しい...!」と、もうね、コシに限りますね。同人誌でも単発のお話しか描いてこなかった民なので、話の組み立て方がまあ難しいといつか、初期の構想段階では本筋もなく、単純に目的もなく幽霊とパンパコしまくるだけの内容だったのです。本筋を立てゴールを決めて毎話作っていくのって、こんなにやる事が増えるものなんだ...と、とっっても勉強になりました。

しかし!私はまだまだ妖怪や幽霊が描き足りないのでは。
たとえば、雪女とか定番どころはトーンと描いてなかったし、3く3首に関しては第1話で4つ見せただけして...何をしてるんだ俺は...!

なので、読者の皆様にはSNS等で

「化けケケ最高!もっと見せてくれ!ヤッヤ×2!!!」

的な事を言ってもらえると、私も出版社さん気分が良くなってまた続編を描かせてもらえるようになるかもしれません。というわけで、今後ともどーかヒトリ応援の程ヨシクおねがいいたします!



最後に、同人誌即売会でせこせこニッチなマンガを描いて売っていた自分を見つけてくださった初代担当のMさん! 本当に〜に感謝しかありません。ありがとうございました!!

とれでは、妖怪や幽霊に欲情してしまう同志の皆様また別の作品でお会いしましょう!

他



GENESYS COMICS

化ケケケ

2023年12月20日 初版第一刷発行

著者 **んめ** NME

発行人 **矢澤 篤**

発行所 **株式会社ゲネシス**

〒166-0003
東京都杉並区高円寺南4丁目10-2吉岡ビル205
TEL:03-5378-7815 FAX:03-5378-7817
<https://genesysenji.co.jp>

発売所 **株式会社鉄人社**

〒162-0801
東京都新宿区山吹町332 オフィス87ビル3階
TEL:03-3528-9801 FAX:03-3528-9802
<https://tetsujinsya.co.jp>

本書の無断転載・複写・上演・放送を禁じます。

また、本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても、著作権法上認められておりません。

本書の掲載作品はすべてフィクションです。
実在の人物・事件・団体等には一切関係ありません。